

第1章 大野町の現況

第1章 大野町の現況

1. 広域的条件

(1) 社会情勢の変化

都市計画を取り巻く環境は、日本の総人口が減少に転じたことをはじめ、高齢社会の到来や地方分権の進展などの社会情勢が、大きく変化しています。

1. 人口減少・少子高齢化の進展

県内では人口が平成52年（2040年）までに1,576,183人（平成12年（2000年）比マイナス53万人）へ減少すると推計されています。この数値は1955年（昭和30年）とほぼ同じ数値となっていますが、当時、総人口の33%を占めていた年少人口（0～14歳）が11%に減る一方、10%に満たなかった老年人口（65歳以上）の割合が36%に上昇するとされており、総数は同じでも年齢構造は「超少子高齢化」となると予測されています。（岐阜県人口ビジョン：平成27年（2015年）10月より）

2. 地球規模の環境問題への対応

地球温暖化やオゾン層の破壊など地球規模の環境問題がますます深刻化する中、環境問題に対する人々の意識・関心も急速に高まっています。環境問題への取り組みは喫緊の課題であり、省エネ・省資源対策や都市における緑の保全・緑化の促進、住民・企業・行政が一体となった環境問題への取り組みの実践、さらには低炭素社会の形成など、自然を生かしながら自然と共生した持続可能な循環型のまちづくりへの転換が求められています。

3. 集約型都市構造の形成

都市機能の郊外へのスプロール化が進み、新たな社会基盤の整備や維持管理など、都市運営にかかるコストの増大を招くだけでなく、自動車交通への依存を加速させ、高齢者などの日常生活に支障を及ぼすとともに環境負荷の増大を招くことが懸念されます。

そのため今後は、中心市街地や工業集積地などの各種拠点に必要な諸機能を集約し、公共交通軸を中心にこれら拠点を連携する集約型都市構造の形成が求められています。

4. 安全・安心意識の高まり

近年、大規模地震や記録的な集中豪雨などにより、深刻な被害が多発しており、また、地域の防犯対策や施設のバリアフリー化等への関心が高まる中で、安全で安心して暮らせるまちづくりの推進が求められています。

5. 厳しい財政状況

多くの都市で、今後の人口減少、少子高齢社会の到来に伴い、年少人口および生産年齢人口の減少が見込まれ、現在の財政状況が一層厳しい状況に陥ることが予想されます。

6. 地域経済を取り巻く環境の変化

人口減少に伴い、国内需要の減少が予想されるとともに、経済のグローバル化が進み、新興国との競争が激化する中で、特に国際競争力を有する我が国の製造業は、海外生産比率を高めており、地域経済を取り巻く環境は地方ほど厳しい状況になっています。

(2) 広域的な位置づけ

大野町は、岐阜県の南西部、濃尾平野のほぼ西北端に位置する東西 5.8km、南北 11.7km、総面積 34.20 k m²からなっています。揖斐郡に属し北は揖斐川町に、東は本巣市と瑞穂市、西は神戸町と池田町に接しています。

広域的な立地条件からみますと、岐阜県の中核的な都市である大垣市（人口約 16 万人）を 10km 圏に有し、県都である岐阜市（人口約 41 万人）も 15km 圏にあります。また、名古屋市には約 40km の距離にあり、東海環状自動車道（仮称）大野・神戸インターチェンジの開通により、各市町間の所要時間が大幅に短縮し、地域の活性化や連携強化、企業進出の促進などが期待されています。

なお、本区域は、隣接する揖斐川町、池田町から構成する揖斐都市計画区域に属しています。

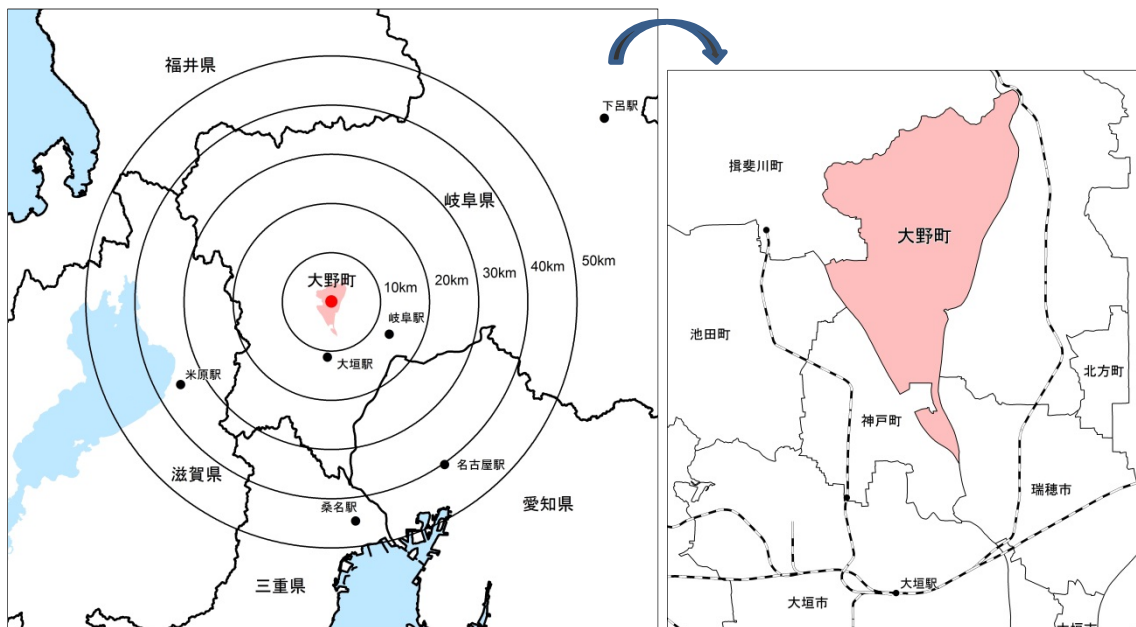


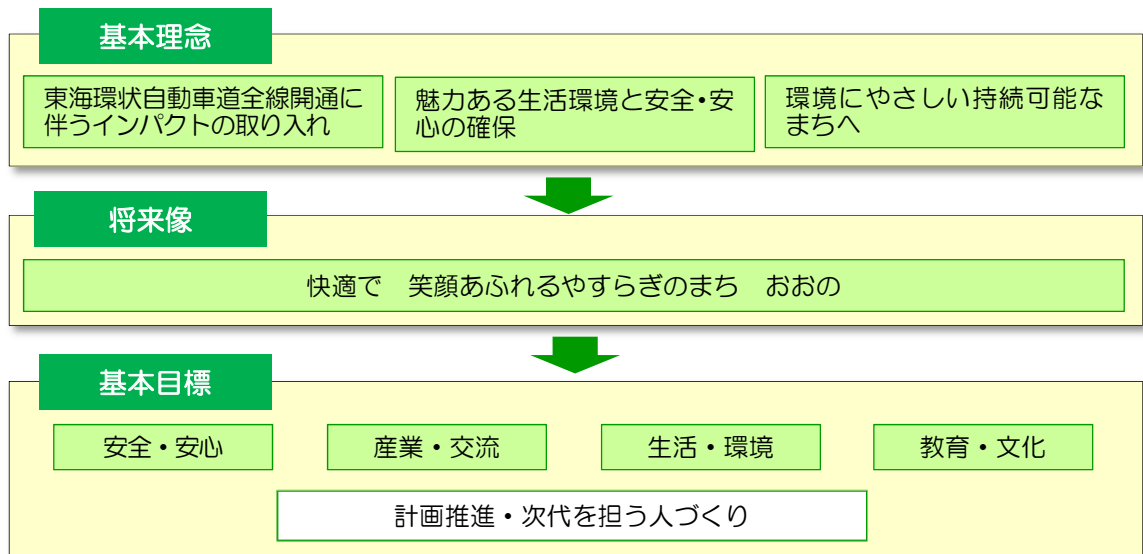
図 1-1 位置図

2. 上位・関連計画

(1) 大野町第六次総合計画

町が策定する最上位の計画であり、総合的かつ計画的なまちづくりを進めるための指針として、町の将来のあるべき姿とそれを実現するための各分野における施策の方向性を示したものです。

- ① 策定年：平成 27 年（2015 年） 3 月
- ② 計画期間：平成 27 年度（2015 年度）～平成 36 年度（2024 年度）
- ③ 基本構想



〇まちづくりの目標

(1) 安全・安心分野

- ・基本目標 1：「助けあい」と「支えあい」で育む安全・安心のまち
 - (1) 災害に強く安全なまち
 - (2) いきいきと健やかに暮らせるまち
 - (3) 支えあい安心して暮らせるまち

(2) 産業・交流分野

- ・基本目標 2：郷土の恵みを活かした「にぎわい」と「憩い」を感じられるまち
 - (1) 産業が元気で活力あるまち
 - (2) 多様な交流が活発なまち

(3) 生活・環境分野

- ・基本目標 3：快適な暮らしを支える自然と共生した持続可能なまち
 - (1) 生活基盤が整い快適に住み続けられるまち
 - (2) 生活や産業を支える交通が整ったまち
 - (3) 環境と共生した持続可能なまち

(4) 教育・文化分野

- ・基本目標 4：「古」と「新」が共存し、地域を愛し、みんなで学びあえるまち
 - (1) 次代を担う子どもたちをみんなで育むまち
 - (2) みんなで学びあい誰もが活躍できるまち
 - (3) 歴史や文化を大切に守り継承するまち

■ 計画推進・次代を担う人づくり

- ・ 推進目標 : (1)様々な人との連携と協働 (2)計画的で効率的な行財政運営

④ 基本計画

○計画フレーム

- ・ 総人口 : 平成 26 年 (2014 年) 24,096 人 ⇒ 平成 36 年 (2024 年) 22,977 人
- ・ 世帯数 : " 7,597 世帯 ⇒ " 7,996 世帯

○リーディングプロジェクト

・ プロジェクト 1 : だれもが集える「道の駅」プロジェクト

道の駅は地域産業の創出の場としてはもちろん、福祉・防災・公共交通など本町が抱える課題を踏まえ、今後の対策を見据えながら必要な機能を備えると共に、観光客や地域住民の交流の場を創出し、活力に満ちた魅力あるまちづくりを目指します。

・ プロジェクト 2 : おおの特産市場プロジェクト

特産品や農産物等を P R するため、特産品の販売施設を整備するとともに、新たな特産品の開発や特産品販売ルートの確立等を目指します。

・ プロジェクト 3 : 名鉄廃線敷再生プロジェクト

名鉄廃線敷に自転車道・歩道や災害時の避難路の整備を行い、課題となっている通学路の確保や観光への活用など、既存ストックの有効活用を図ります。

・ プロジェクト 4 : おおの観光 P R プロジェクト

観光客の増加と観光消費額の向上を図るため、観光ルートのネットワーク化や施設整備、推進体制の整備を図ります。

・ プロジェクト 5 : おおのを元気に～企業誘致～プロジェクト

インターチェンジの開通に伴って向上する大野町の優位性を生かし、多くの企業に立地してもらえるよう、適正な土地利用の誘導を図ります。



・ プロジェクト 6 : 文化財保存・活用プロジェクト

大野町が持つ文化財を生かしたまちづくりの基本構想の策定や、既存の文化財の保全・整備を行うことで歴史文化を尊重したまちづくりを目指します。

・ プロジェクト 7 : エコタウンおおの推進プロジェクト

東日本大震災を契機としたエネルギー政策の見直しが進められる中、再生可能エネルギーや省エネ対策に取り組み、町全体がクリーンで環境に優しいまちとなるようなまちづくりを進めます。

・ プロジェクト 8 : 安全・安心・快適なまちづくりプロジェクト

自転車道・歩道の整備、公園・スポーツ施設等の整備、通勤通学手段の構築を行い、子どもからお年寄りまですべての町民が安全・安心・快適なまちづくりを目指します。

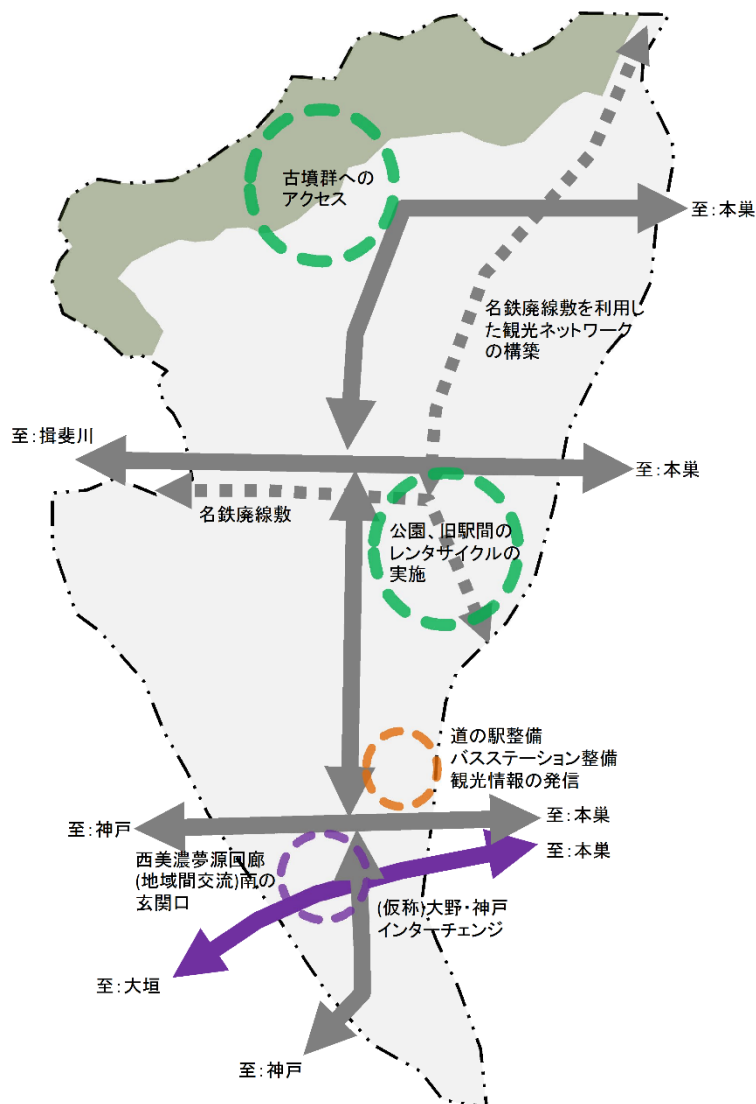
(2) 大野町ランドデザイン

インターチェンジ開通を見据えたまちづくりの基本計画を示したものであり、当計画に描かれた、夢と希望に満ちた町の将来像を実現すべく、町民との協働のもと、着実かつ計画的な事業展開を図り、良好なまちづくりを推進するとされています。

- ① 策定年：平成 25 年（2013 年） 3 月
- ② 基本目標：「人と企業が集い 活力あふれる エコタウン おおの」
- ③ 取り組む施策の方向性

○ 観光 ～ふるさと大野町の資源を生かした活力づくり～

田、畑、山林に代表される豊かな自然資源、国指定の文化財をはじめ観光資源としてのポテンシャルを有する歴史資源、全国有数の果樹（柿）やバラの生産地である農業資源等、本町ならではの資源を生かしながら、観光交流を拡大することで、活力を高める（人が集まり、経済が循環する）地域づくりを進めていきます。

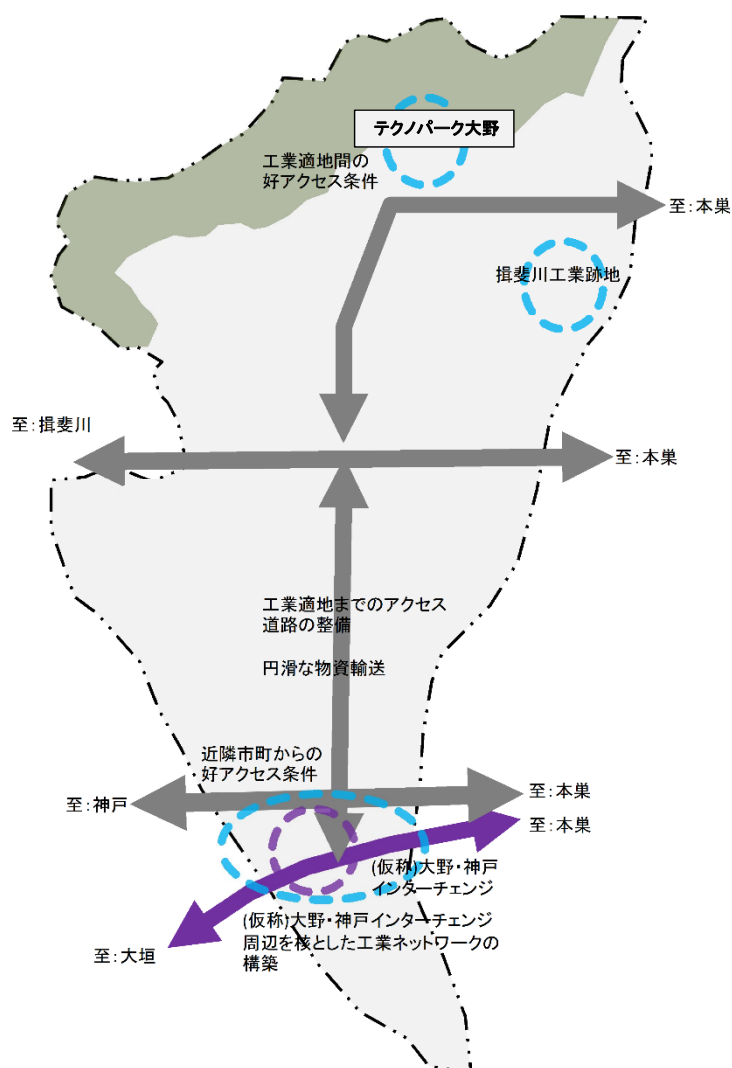


■ 観光関連施策イメージ



○ 企業誘致 ～誰もが活躍できるふるさと大野町づくり～

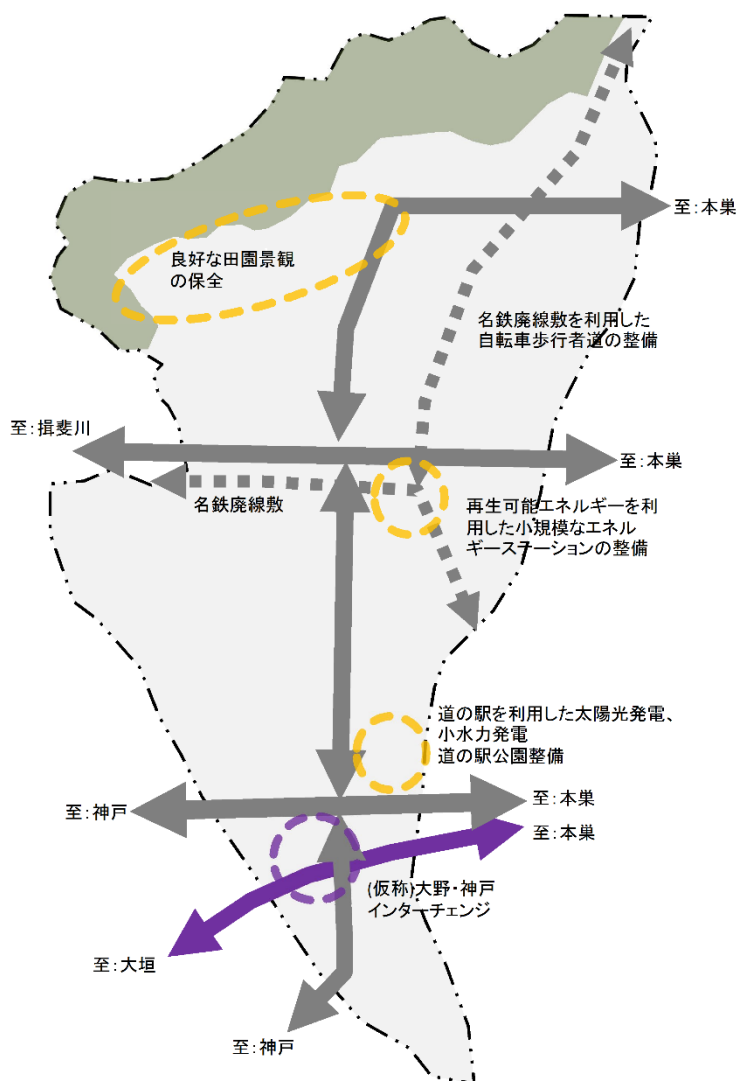
(仮称)大野・神戸インターチェンジの開設により飛躍的に高まる広域的な交通条件を生かし企業誘致を積極的に進めるとともに、本町農業の特徴である果樹生産とのコラボレーションによる新たな地域産業の育成等により、産業振興と町民の新規雇用機会の拡大を図っていきます。



■ 企業誘致関連施策イメージ

○ 環境 ～自然エネルギーを活用したエコタウンづくり～

大野町は揖斐川、根尾川に挟まれ、また町内を^{みみずがわ}三水川が流れるなど豊富な水に恵まれており、こうした地域の水や、太陽光等を活用した地域エネルギーシステムを構築することで、持続可能な低炭素・循環型地域の形成を進めていきます。



■ 環境関連施策イメージ



④ 8つの主要プロジェクトの体系

厳しい財政状況下においては、効率的・効果的なまちづくりを進めるとともに、複数の施策の一体的・総合的展開により、相乗効果を高めるような取り組みが求められます。

具体的には、各施策の展開イメージを踏まえながら、3つの政策を横断する主要プロジェクトを立案し、個別事業の実施を図ります。ここでは、以下のような8つの主要プロジェクトを掲げるものとします。

表 1-1 8つの主要プロジェクト一覧

主要プロジェクト名	内 容
1 だれもが集える「道の駅」プロジェクト	観光客及び地域住民の交流の場を創出し、かつ、南部の防災拠点として活用することにより、活力に満ちた魅力あるまちづくりを行い、大野町の知名度アップを図ります。
2 「おおの特産市場」プロジェクト	特産品及び農産物等をPRするため、特産品の販売施設の整備はもちろん、新たな特産品の開発や特産品販売ルートの確立等を目指します。
3 名鉄廃線敷再生プロジェクト	名鉄廃線敷に自転車歩行者道や災害時の避難路の整備を行い、課題となっている通学路の確保や観光への活用など、既存ストックの有効活用を図ります。
4 おおの観光PRプロジェクト	観光客の増加と観光消費額の向上を図るため、観光ルートのネットワーク化や施設整備、推進体制の整備を図ります。
5 おおのを元気に～企業誘致～プロジェクト	ICの開通に伴って向上する大野町の優位性を生かし、多くの企業に立地してもらえよう、適正な土地利用の誘導を図ります。
6 文化財保存・活用プロジェクト	大野町が持つ文化財を生かしたまちづくりの基本構想の策定や、既存の文化財の保全・整備を行うことで歴史文化を尊重したまちづくりを目指します。
7 エコタウンおおの推進プロジェクト	東日本大震災を契機としたエネルギー政策の見直しが進められる中、再生可能エネルギーや省エネ対策に取り組み、町全体がクリーンで環境に優しいまちとなるようなまちづくりを進めます。
8 安全・安心・快適なまちづくりプロジェクト	自転車歩行者道の整備、公園・スポーツ施設等の整備、通勤通学手段の構築を行い、子どもからお年寄りまですべての町民が安全・安心・快適なまちづくりを目指します。

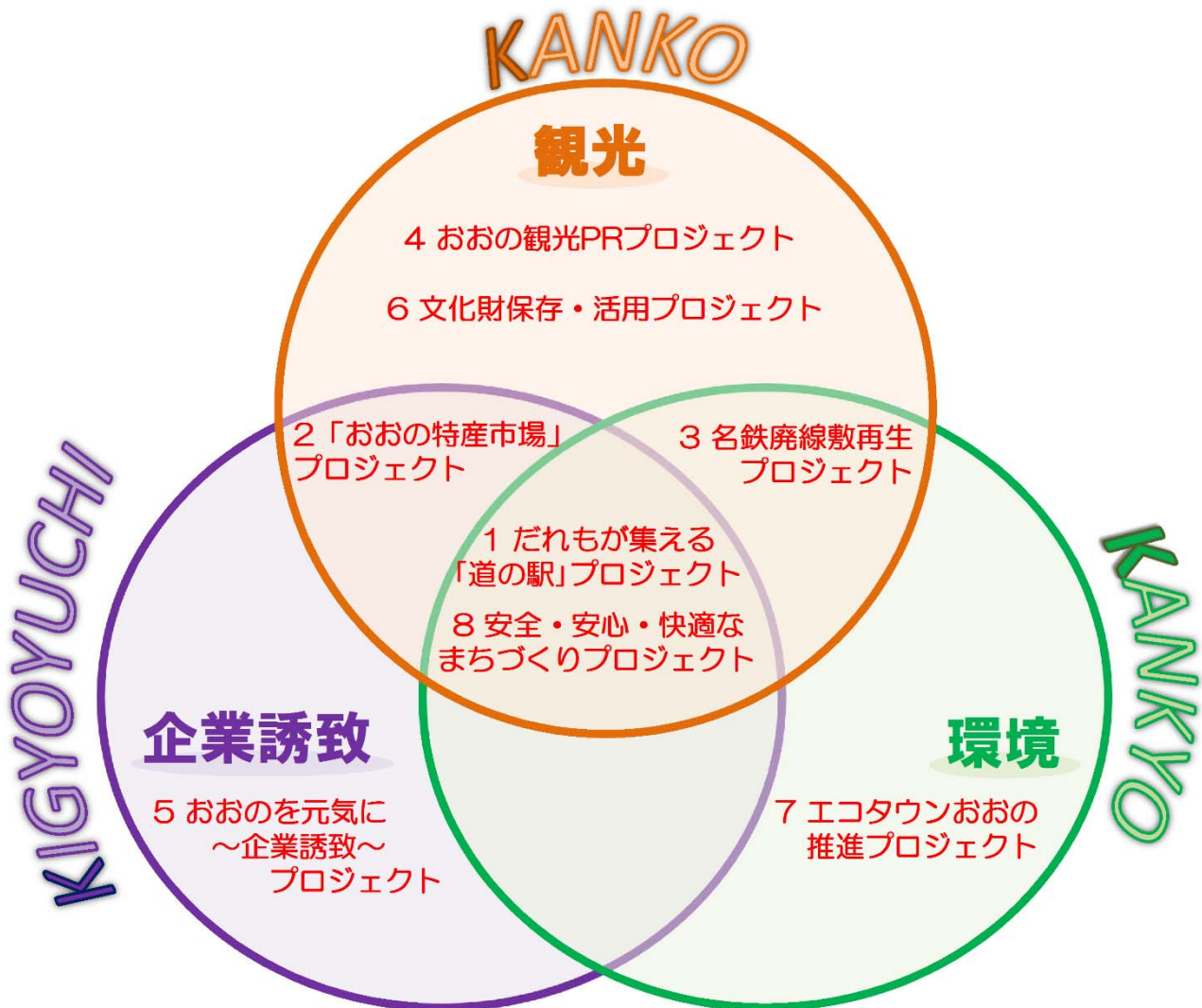
⑤ 政策の3つの柱が融合する施策展開

3つの政策の実施にあたっては、政策ごとに個別に施策展開を図るのではなく、可能な限り政策の総合化、複合化を目指した「政策の融合」に努めるものとします。

主要プロジェクトは、3つの政策を横断し、一体的・総合的な施策展開をねらいとしたものです。ここでは、政策の3つの柱が融合する8つの主要プロジェクトの位置づけを示します。

政策の3つの柱が融合する施策展開

～8つの主要プロジェクトの位置づけ～



(3) 揖斐都市計画区域マスタープラン

都市計画法第6条の2に基づき、県が広域的な見地から概ね20年後の将来を見据えながら、道路、公園や市街地の整備等の概ね10年後の大きな方向性を示すものであり、本町では、揖斐川町、池田町の区域と一体となった整備、開発および保全の方針を示しています。

- ① 策定年：平成15年（2003年）1月（平成23年変更）
- ② 計画の対象範囲：揖斐都市計画区域（揖斐川町、大野町、池田町）
- ③ 都市計画の目標

【基本理念】【^{おいろ}音色豊かなトライアングル（健康・ロマン・つながり）都市の建設】

テーマ1：水と緑という地域の自然資源を活かしたまちづくり

- ・緑豊かな自然と美しい水の活用
- ・水と緑を媒介に人間をも含む動植物が共生

テーマ2：健康で安全・安心に暮らせるまちづくり

- ・保健医療体制や都市防災等に配慮した建築物、交通施設、公園等の施設整備

テーマ3：快適・便利・機能的等の豊かな生活空間のあるまちづくり

- ・都市施設等の整備の推進、新たな施設の都市計画決定
- ・混在用途の解消による、土地の合理的利用

テーマ4：活力と豊かな暮らしのあるまちづくり

- ・（都）東海環状自動車道を骨格に活力ある地域産業の創造
- ・岐阜、福井、滋賀の都市間交流都市として揖斐川文化圏の形成

テーマ5：住民参加・協働によるまちづくり

- ・自治組織やボランティア団体、NPOなどの自主的な市民団体への支援、組織の充実

④ 地域毎の市街地像（まちづくりのイメージ）

(1) 商業地域…「活力ある商業の振興を図る地域」

養老鉄道の主要駅の周辺や幹線道路沿いで、商業施設が立地する地域であり、商業・業務施設を中心に誘導します。

(2) 住居地域…「良好な居住環境の形成をめざす地域」

人口集中地区や都市計画法施行規則第8条第2項（50ha以下の整形の区域ごとの建築物等の敷地面積が当該区域面積の1/3以上のもの）地区を中心とした商業地の周辺地域であり、将来市街化を誘導する範囲の位置をある程度想定し、農業地帯への無秩序な市街化を抑制します。このため、当該地域内では、用途地域等を活用して良好な居住環境の維持・形成を図ります。

(3) 工業地域…「工業施設や流通業務施設を中心に誘導する地域」

既存の工場集積地以外に、インターチェンジ周辺、テクノパーク大野、（都）池田揖斐川線、（都）大野揖斐川線の周辺地域および適地において、インターチェンジを中心とした都市計画区域内交通のネットワークを確立し、ソフトピアジャパンを核とした情報関連産業との連携強化を図り、先端産業の誘致を中心に活力ある地域産業の創造を目指します。

(4) 農業集落地域…「緑豊かなゆとりある住環境を目指す地域」

本区域の大部分を占める農地を含む農村集落が形成されている地域であり、優良な田園環境を保全し、農地と住宅地との調和を図ります。

(5) 森林他…「観光レクリエーションによる地域交流を図る地域」

森林等を活用した自然との交流地域として、公園・緑地等のレクリエーション施設の整備を推進し、自然環境との調和を図ります。

⑤ 土地利用に関する方針**(1) 住居系**

- ・住宅地については、既存の住居の集積が高い各町の中心部とその周辺に一体的になるように配置し住環境の整備を図ります。

(2) 商業系

- ・商業地については各町それぞれに地域商業核を形成する方針とし、既存商業地の活性化に努めます。一方、養老鉄道駅周辺は公共交通機関活性化にも重要な位置であり、養老鉄道養老線の揖斐駅、池野駅周辺を核とし、大野町地内の（国）303号沿いを含め、商業地の形成を図ります。
- ・（都）池田岐阜線および（都）池田揖斐川線の池田町地内では、現在大型商業施設が立地しており、この地区を拠点に沿道商業地の形成を図ります。
- ・将来的には大野町地内の（都）池田岐阜線および（都）大野揖斐川線沿道にも沿道商業地の形成を目指します。
- ・幹線道路沿道の商業地は、無秩序な商業施設の立地の抑制に努め、一定の範囲での商業地の形成を目指します。

(3) 工業系

- ・工業地については、インターチェンジ開設により、工場等の新たな立地の可能性が高まると予想されることから、計画的な立地を図るため、既存工業地に加えて、テクノパーク大野およびインターチェンジ周辺並びにその立地が望ましい地区に配置します。
- ・インターチェンジ周辺は、無秩序な開発を抑制するとともに、今後想定される物流系の工業施設等の立地を考慮し、地区計画などにより計画的な土地利用誘導を行います。

⑥ 都市施設の整備に関する方針**(1) 交通施設**

- ・都市計画道路が決定され、整備が進められていますが、より充実した道路体系の整備を図るため、新たな道路の計画を検討します。また既に都市計画決定された道路の内、未完成道路については、社会経済環境の変化を考慮しつつ必要性を検証し、その結果を踏まえ、廃止を含めた計画変更を検討し、真に必要な路線を優先した効率的な整備を図ります。
- ・道路は単に自動車交通の円滑な処理機能のみでなく、都市の景観やアメニティに大きな影響を及ぼす空間であることに充分配慮して、整備を図ります。
- ・公共交通機関としての鉄道は、高齢社会において交通弱者に対して重要な施設であることからその維持に努めます。

(2) 下水道・河川

- ・下水道：3町では、土地利用計画との整合等を図りながらそれぞれにおいて単独公共下水道事業や特定環境保全公共下水道事業の整備を推進します。
- ・河川：桂川、杭瀬川等では、「洪水等の水害防止」「農業用水等河川の利活用」「周辺住民の生活に潤いをもたらす空間」「自然との共生」のための整備を行います。

⑦ 市街地開発事業に関する方針

- ・将来発生する新たな市街地需要に対しては、土地区画整理事業等計画的な開発により、良好な市街地環境の形成を目指します。

⑧ 自然的環境の整備又は保全に関する方針

- ・現在の豊かな自然環境を保全することと身近な公園・広場を整備するという2つの視点より公園、緑地等の整備に努めます。



図 1-2 揖斐都市計画区域 総括図

(4) 大野町人口ビジョン

将来人口の減少が予想される中、人口減少を克服し、「ひと」と「しごと」の好循環をつくりだすため、町の人口に関する現状分析を行ったうえで、町が目指すべき将来の方向性と人口の展望を示したものです。

本町では、平成 72 年（2060 年）に 2.2 万人程度の人口を維持することを目標に、以下の視点と方向性が示されています。

基本的視点

子育てしやすい環境づくり

働く場づくり

移動しやすい環境づくり

目指すべき将来の方向性

方向性 1：だれもが子育てしやすい、自然のなかで健やかに子育てできる地域

方向性 2：多様な働き場を確保した、職住近接の暮らし

方向性 3：だれもが移動しやすい、住み慣れた地域で、便利な暮らし

① 策定年：平成 27 年（2015 年）10 月

② 計画期間：平成 72 年（2060 年）まで

③ 大野町の人口動態

○人口減少と少子高齢化

- ・住民基本台帳では平成19年（2007年）の24,557人をピークに以降減少が続き、平成27年（2015年）現在で23,942人（対平成19年・△615人・△2.5%）
- ・年少人口（15歳未満）と生産年齢人口（15歳以上65歳未満）が減少する一方で、老年人口（65歳以上）が増加
- ・核家族世帯が増加し、親からの子育て支援を受けやすい3世代同居世帯が減少

○自然動態

- ・出生数が横ばい傾向となるなか死亡数が増加傾向
- ・合計特殊出生率は若干増加したが、県平均を下回っている。
- ・子どもの親となる若い女性の数が平成26年より減少している。
- ・未婚率は県平均を下回っているが、増加傾向

○社会動態

- ・平成21年（2009年）以降、町外への転出超過が続いている。
- ・転出理由は、「職業上」や「結婚等」が多い。転入理由は、「住宅事情」が多い。
- ・転出は、15歳～34歳の期間に多く、進学・就職・結婚等をきっかけに転出している。
- ・転入は、0歳～14歳と35歳～44歳で多く、子育て世帯が住宅取得をきっかけに流入。
- ・転出超過は、池田町と瑞穂市、愛知県など県外、国外で多く、転入超過は揖斐川町や本巣市で多くなっている。
- ・働く場が減少傾向にある一方、女性の就業率は高くなっている。

④ 目指す人口の展望（将来人口の設定）

○大野町の将来人口

- ・「現状推移」では、平成46年で2.1万人弱にまで減少
- ・「第六次総合計画の推計値」（基本推計）では、平成46年で2.2万人弱にまで減少、このまま減少すると平成72年には2.0万人以下に減少



- ①合計特殊出生率を2030年までに1.8、2040年までに2.07まで上昇させる。
②若年層（20歳～34歳）の転出超過を解消する。



平成72年（2060年）に2.2万人程度の人口を維持する。

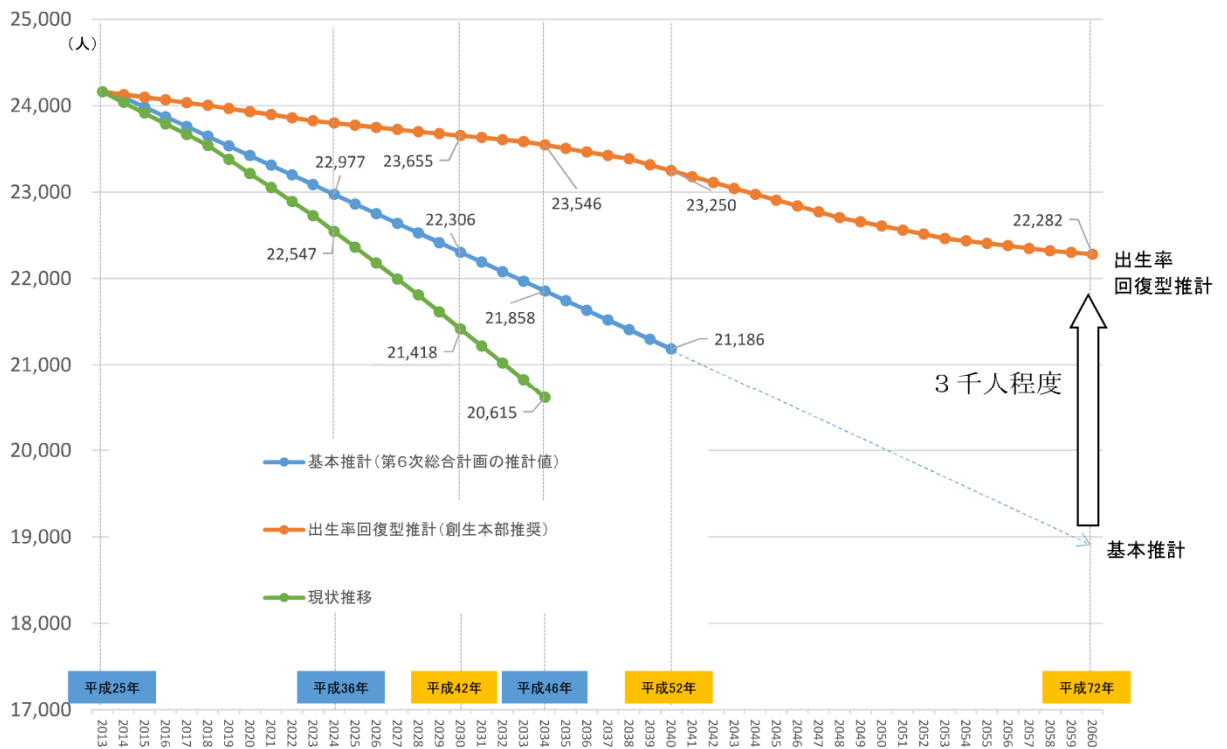


図 1-3 まちの将来人口推計図

(5) おおの創生総合戦略

大野町人口ビジョンで示された「2060年に人口2.2万人程度を維持する」ことを目指し、出生率の向上や社会移動の改善を図るために今後5年間で重点的に取り組むべき施策・事業を示したものです。

① 策定年：平成27年（2015年）10月

② 計画期間：平成27年度（2015年度）から平成31年度（2019年度）までの5年間

③ 基本的視点

○ 視点1：自然減少へのチャレンジ

- ・結婚・出産・子育ての希望をかなえる（出生数を増やす）
- ・いつまでも健康の希望をかなえる（健康寿命をのばす）

○ 視点2：社会減少へのチャレンジ

- ・住んでよかった・住みつづけたいの実現（定住）
- ・住んでみたいの実現（移住）

○ 視点3：自然減少・社会減少を補う視点

- ・雇用増（地域産業の活性化）
- ・交流人口の増

④ 基本目標と主要な施策

○ 基本目標1：結婚・出産・子育ての希望をかなえる（出生数を増やす）

- ・目標指標：年間出生数【基準値：189人、数値目標：194人】

合計特殊出生率【基準値：1.4、数値目標：1.53】



○ 主要な施策

- ・子育て支援の充実⇒延長保育事業等の拡充・放課後クラブ
- ・地域で子どもを守り・育む環境づくり⇒子育て・働きざかり世代の健康づくり（ノルディックウォーキング）、木育による子育て支援、待機児童ゼロ継続のための保育環境改善事業
- ・結婚・出産の支援⇒不妊治療対策
- ・教育力の強化、教育レベルの向上⇒少人数指導・TT（ティームティーチング）推進

○ 基本目標2：いつまでも健康の希望をかなえる（健康寿命をのばす）

- ・目標指標：健康に暮らす人の割合【基準値：85.1%、数値目標：86%】



○ 主要な施策

- ・健康寿命の延伸と体力増進
⇒健康づくり（健康講座、イベント等開催・ノルディックウォーキング大会の開催）
⇒保健サービスの充実（検診等の充実）、高齢者の生きがいづくり

○ 基本目標 3：住み続けたい・住んでみたいという希望をかなえる（移住定住の促進）

- ・ 目標指標：若年層（20～34歳）転出入者数【基準値：32人の転出超過、数値目標：転出超過0人】



○ 主要な施策

- ・ 地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大⇒道の駅を活かしたにぎわいづくり、名鉄廃線敷再生
- ・ タウンプロモーションの展開⇒おおの観光PRプロジェクト、広域観光（西美濃広域観光、西美濃夢源回廊など）
- ・ 定住環境としての魅力向上⇒空家の有効活用、防災（外灯LED化）、環境保全（エコ実践日本一）、インターチェンジ周辺土地利用計画推進
- ・ 郷土愛の醸成・特色あるふるさとづくり⇒北岡田家住宅・野古墳群の保存・活用
- ・ 地域活動の活性化、公民館を中心とする世代間交流事業の支援
- ・ 公共交通の充実⇒デマンドタクシー、通学定期補助、アユカ助成、高速バス路線の運行、総合交通体系充実
- ・ 地域福祉の充実⇒地域交流サロン事業
- ・ 移住・UJIターンの促進⇒民間住宅の取得支援

○ 基本目標 4：働きたいという希望をかなえる（地域産業の活性化）

- ・ 目標指標：町内事業所における従業者数【基準値：6,678人 数値目標：6,800人】



○ 主要な施策

- ・ 地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大⇒道の駅を活かしたにぎわいづくり、おおの特産市場
- ・ 地域ブランドの創造・魅力の向上⇒新たな特産品・ブランドづくり（大野の太鼓判）
- ・ 新産業の創出・育成⇒工業地区等確保（テクノパーク大野の整備、インターチェンジ周辺の土地利用計画）
- ・ 農業の活性化・担い手育成⇒就農補助拡充、道の駅における農産物直売施設整備、ぎふクリーン農業推進に向けた支援、6次産業化
- ・ 商工業の振興⇒物産販売施設整備
- ・ 働きやすい就労環境⇒働きやすい環境の整備

○ 基本目標 5：訪れてみたい・もてなしたいという希望をかなえる（交流人口の拡大）

- ・ 目標指標：観光入込客数【基準値：30万人、数値目標：70万人】



○ 主要な施策

- ・ タウンプロモーションの展開⇒観光PRプロジェクト（観光ルート）、広域観光（西美濃夢源回廊）
- ・ 地域資源を活かした交流・集客の創出・拡大⇒道の駅を活かしたにぎわいづくり（観光拠点化）、おおの特産市場（物産販売施設整備）

(6) 都市再生整備計画

地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図るため、国土交通省が支援している事業であり、本町ではこれまで「大野町南東部地区」、「大野町条里地区」、「大野町南部地区」で本事業を活用しています。

【大野町南東部地区】

① 面積：約 715ha

② 計画期間および交付期間：平成 17 年度（2005 年度）～平成 20 年度（2008 年度） 4 か年

③ まちづくりの大目標：「バラ（苗生産日本一）を活かしたまちづくり」

○ 道路、公園等の整備を行い、バラを活かした地域イベントを開催し、交流人口の増加を図る。それにより、町の知名度を向上させ、バラ苗木の出荷量の増加を図り、地域経済の活性化を図る。

○ 安全、安心で快適な住環境を整備することにより、定住人口の増加を図る。

④ 計画区域の整備方針

- ・ 町道五之里本庄幹線について、バラ公園へと誘致するアクセス道路として位置づけ、道路内にバラが植栽された植樹帯を整備する。また、路線の各区画に特色のある歩道を設け、通る人がゾーン毎に違いを感じ、その違いを楽しむことの出来る歩道整備を行う。
- ・ 主要幹線沿いにバラ公園へ誘致を促すサインを設置し、来訪者の引き込みを図る。
- ・ 花田川兩岸の道路においては、桜とのふれあいの場、憩いの場とするために、道路の幅員を広くとり、観光客が散策できるように整備を図る。また、近接する道路を整備し、バラ公園から亀山・北山古墳への「史跡散策道」と位置づけ、季節の変化を肌で感じる事の出来る憩いの場を目指し整備を行う。
- ・ バラ公園周辺にある駐車場および施設については、大野町を代表するイベントのバラまつりの期間中に、多くの観光客が訪れ賑わいを見せる場所であり、年間約 3 万人を超える観光客が訪れる場所として、質の高い整備を行うものとする。
- ・ 中心市街地に近い根尾川右岸と交通結接点となるバスターミナル周辺において、多くの人が集まる場として自然とのふれあいの場、憩いの場として、住民や観光客が散策できるよう歩道、駐車場、広場等の整備を図り、まちの入り口としての環境整備を行う。
- ・ 地区内の町営住宅跡地に公営住宅 8 戸と特定公共賃貸住宅 24 戸の住宅を建設し、まちのシンボリックな建築物として整備し、定住人口を増加させる。

【大野町条里地区】

- ① 面積：約 670ha
- ② 計画期間および交付期間：平成 21 年度（2009 年度）～平成 25 年度（2013 年度） 5 か年
- ③ まちづくりの大目標：「大野町ならではの地域文化を活かしたまちづくり」

目標 1：地域間交流の場やスポーツ振興の場を整備し、あらゆる生活の場で自然とのふれあいや、人、文化、情報が交流しあうゆとりあるまちづくり

目標 2：歴史的遺産や伝統を保全し、後世や来訪者などの町内外に文化を伝えていくまちづくり

目標 3：観光資源となる魅力の活用や関連道路や歩道などを整備し、人が訪れやすくする快適な環境づくり

④ 計画区域の整備方針

- ・整備方針 1：地域交流の場やスポーツ振興の場を確保し、人・文化・情報が交流しあうまちづくり
- ・整備方針 2：伝統を保全し、文化を伝えていくまちづくり
- ・整備方針 3：観光資源を活用した、人が訪れやすくする環境づくり

【大野町南部地区】

- ① 面積：約 490ha
- ② 計画期間および交付期間：1 期 平成 25 年度（2013 年度）～平成 27 年度（2015 年度）
3 か年
2 期 平成 28 年度（2016 年度）～平成 31 年度（2019 年度）
4 か年
- ③ まちづくりの大目標：「大野町の観光拠点やアクセス条件を生かした交流の活性化による、活気と魅力にあふれたまちづくり」

目標 1：地域の交流拠点となる道の駅の整備を行い、観光客および地域住民の交流の場の創出による活力あるまちづくり

目標 2：防災設備の整備を行い、町南部地域の防災機能を強化した安全安心なまちづくり

目標 3：観光拠点整備に伴う周辺の一体整備による、連続性のある効率的なまちづくり

④ 計画区域の整備方針

- ・整備方針 1：観光客および地域住民の交流の場の創出による活力あるまちづくり
- ・整備方針 2：防災機能の強化による安全・安心なまちづくり
- ・整備方針 3：周遊・散策路の整備による周遊性のある一体的なまちづくり

(7) 大野町道の駅基本計画

グランドデザインに掲げる重点テーマ“3つのK「観光」「企業誘致」「環境」”を具現化し、子どもからお年寄りまで町民だれもが日常的なやすらぎの場として利用できるとともに、町外からの来訪者をあたたかく迎え入れ、もてなすことができる魅力ある道の駅を整備するための基本的な考え方を示したものです。

① 策定年：平成27年（2015年）3月

② 全体テーマ

周辺で競合する他の道の駅との差別化を図り、大野町の魅力である「バラ」と「柿」を更に磨き上げ个性的で魅力ある施設を創出することにより、大野町全体の観光振興および地域振興の中心拠点となる道の駅としていく。道の駅は地域ビジネスの場としてだけではなく、福祉・防災・環境・公共交通など大野町が抱える課題を踏まえ今後の対策を見据えながら、必要な機能を備える。道の駅を大野町へのエントランス拠点として町全体のランドマークと位置づけ、田園地帯に浮かぶ憩いのオアシス、“やすらぎの杜”とし、常緑樹を主体とした緑の「ガーデンオアシス」を創出していく。

③ 実現のための5つのテーマ（大野町らしい道の駅とするための魅力）

テーマ1. 地域をつなげる活性のオアシス

～大野町の歴史・文化・観光の情報発信基地、地域活性化拠点としての“杜”～

田園地帯に浮かぶ憩いのオアシスとして、将来的な森を形成する常緑樹を主体とした緑のガーデンオアシスを創出していく。

道の駅のガーデンオアシスをランドマークとして、町全域に緑のネットワークを創出し増殖させて、“エコタウンおおの”の「環境」づくりを推進させる活性化拠点として位置づける。段階的に町道の並木や廃線跡地の緑化等、町全体の緑のネットワーク化につなげる。

テーマ2. 地域を元気にする経済のオアシス

～地域の産業、地域内経済を活性化する収益施設～

地域資源である柿、バラの産業に活力を与え、生産者の減少を抑えつつ、地域内で循環できる仕組みとする。

テーマ3. 活気があふれる交流のオアシス ～地域の活力を生む交流拠点～

地域住民を中心に町外からも集まり、オアシス（心の休まる場、遊べる場）として、子供から高齢者までがイベント企画や施設利用を通して交流できる、地域活性化拠点とする。

テーマ4. 癒しを与える健康のオアシス

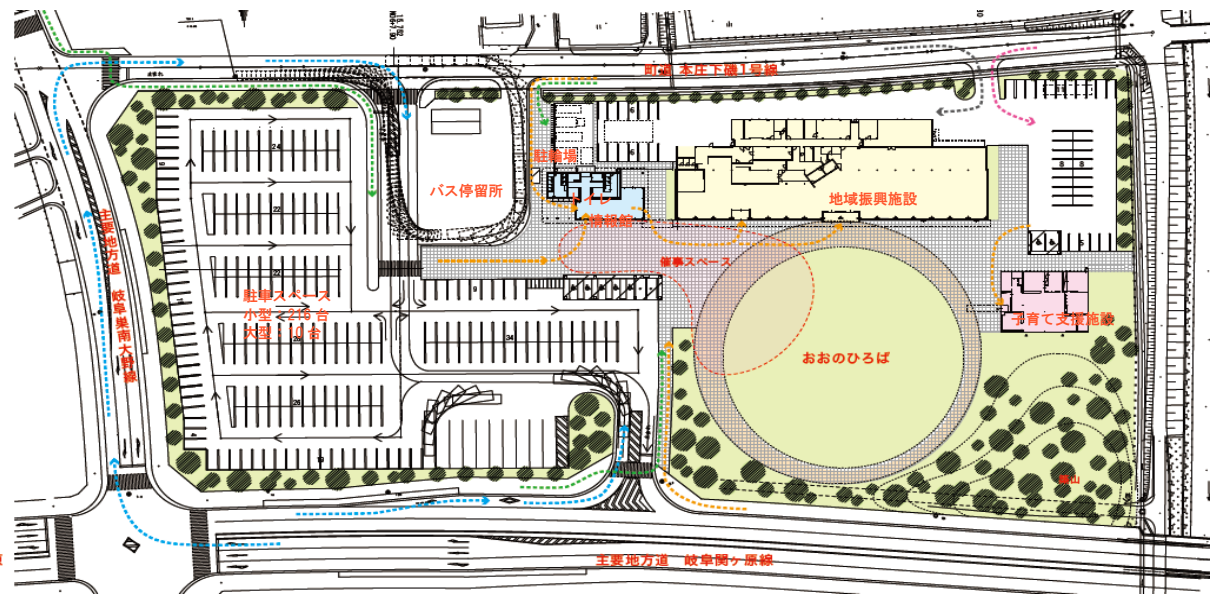
～やすらぎの杜をはじめとした癒し・健康づくりの空間～

田園地帯の単調な平場であるからこそ、豊かな樹々でつくられる“森”がオアシスとなり、森を満喫できる散策路や遊びの立寄り休憩空間を提供し、利用者の心と体に癒しを与える。

テーマ5. 安全・安心の防災・暮らしのオアシス

～大野町の地域を守る多機能な防災・暮らしの拠点～

2～5mの洪水浸水想定区域である計画地について緩やかな起伏を形成する造成を行ない、修景を展望できる防災と癒しの広場を形成する。また、駐車場を兼ねた調整池の設置によって地域の防災に寄与し、地域に安心を与えるセーフティーステーションとなる。



一般車両動線 歩行者動線 子育て支援施設利用者車両動線
 従業員車両動線 自転車動線

施設概要

地域振興施設 (飲食・物販棟)
 階数：一階建て
 床面積：約 1,290 m²

道の駅のメインの施設で、地域の野菜や特産の柿を売る物販エリアやビューフェ形式でそれらの野菜を使った料理を楽しむレストラン、焼きたてのパンを味わえるベーカリーなどが入ります。

【主要なエリア】

- 物販エリア
- ベーカリー
- レストラン
- 木育コーナー など

子育て支援施設棟
 階数：一階建て
 床面積：約 350 m²

乳幼児と母親が気軽に利用できる施設で、親子で遊んだり、子育ての情報交換できる場です。調理室は大型のキッチンが設置され、離乳食講座やレンタルキッチンなど地域の人々が利用可能です。

【主要なエリア】

- プレイルーム
- 乳児室
- 調理室
- 図書コーナー など

トイレ・情報館
 階数：一階建て
 床面積：約 180 m²

ゆとりをもった大きさのトイレと周辺の交通情報や地域の観光スポットを伝える情報館からなる施設です。

【トイレの規模】

- 女子トイレ 8基 +パウダーコーナー
- 男子トイレ 大3基 小6基
- 幼児用トイレ 男女各1基
- 多目的トイレ

図 1-4 道の駅全体配置計画



■ 鳥瞰イメージ

3. 大野町の現況

(1) 自然条件

大野町の地形は、北部に大谷山（356m）、滝谷山（398m）、雁又山（430m）などが連なっていますが、西に揖斐川、東に根尾川が流れ、町域の大半は2つの河川の合流地域に開けた平坦地で、水と緑に囲まれた自然豊かな町です。

気候は表日本式気候※で、1年を通じて温暖な日が多く、雨量もまた多くなっています。平成27年の気象の概要は、表1-2、図1-5のとおりです。

※表日本式気候：夏には太平洋の高温多湿な空気が吹き込むため雨が多く、冬には北西の季節風が高い山々を越えて吹き降ろすため空気は乾燥し、雨が少ない。夏から秋にかけては、台風におそわれることが多い。

表1-2 気象の概要（平成27年（2015年））

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均気温（℃）	4.2	4.6	8.6	14.6	20.6	22.0	26.1	27.5	22.4	17.3	13.5	8.5
日照時間（h）	118.3	132.1	179.3	157.8	244.9	129.8	130.9	194.1	164.6	233.8	112.8	134.9
降水量（mm）	154.0	78.5	189.5	254.0	217.5	388.5	425.5	238.5	363.0	93.0	188.5	203.0

出典：気象庁（平成27年（2015年））

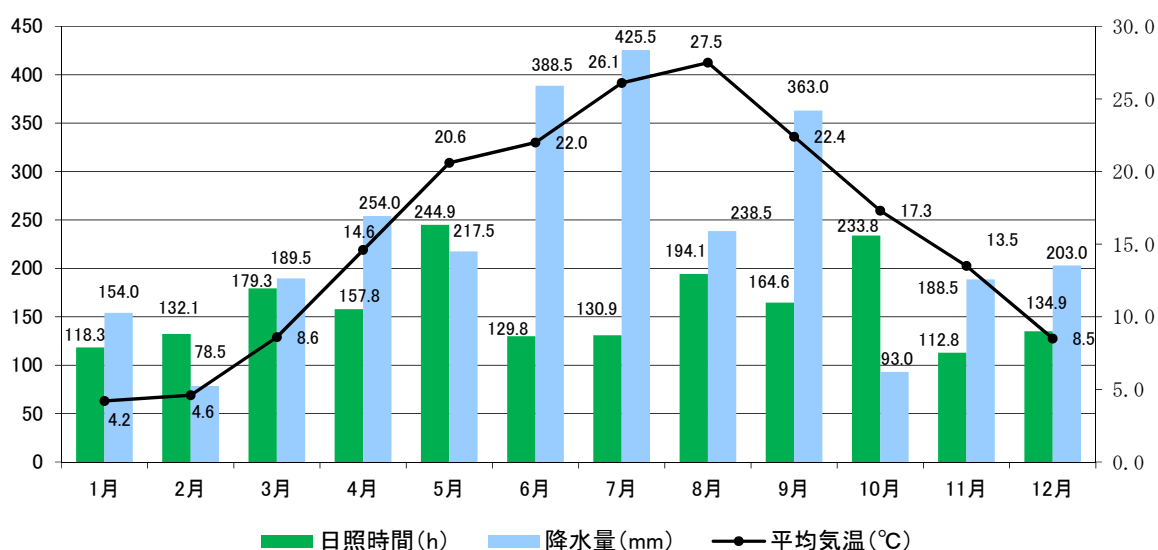


図1-5 気象の概要（平成27年（2015年））

(2) 歴史的条件

歴史的な文化遺産や天然記念物も豊富で、二段咲きの花が見られる「揖斐二度ザクラ」（大正12年国天然記念物指定）や、前方後円墳や円墳等10基以上が密集する「野古墳群」（昭和32年国史跡指定）など、歴史のロマンを感じる多くの遺産があります。

(3) 人口・世帯

① 総人口・世帯数

平成18年(2006年)から平成27年(2015年)までの10年間の人口の推移を見ると、表1-3、図1-6のとおり平成27年(2015年)が23,464人、平成18年(2006年)が23,967人と503人減少していますが、ほぼ横ばいで推移しています。

一方、世帯数については、平成27年(2015年)が7,369世帯、平成18年(2006年)が6,997世帯と372世帯と増加しており、そのため、1世帯あたり人員は、3.43人/世帯から3.18人/世帯へと減少しています。

表1-3 人口・世帯の推移

年次	人口 (人)	世帯数 (世帯)	世帯人員 (人/世帯)
平成18年	23,967	6,997	3.43
平成19年	23,876	6,991	3.42
平成20年	23,868	6,957	3.43
平成21年	23,833	6,995	3.41
平成22年	23,867	7,219	3.31
平成23年	23,787	7,307	3.26
平成24年	23,730	7,359	3.22
平成25年	23,633	7,431	3.18
平成26年	23,463	7,514	3.12
平成27年	23,464	7,369	3.18

出典：岐阜県人口動態統計調査（毎年10月1日）

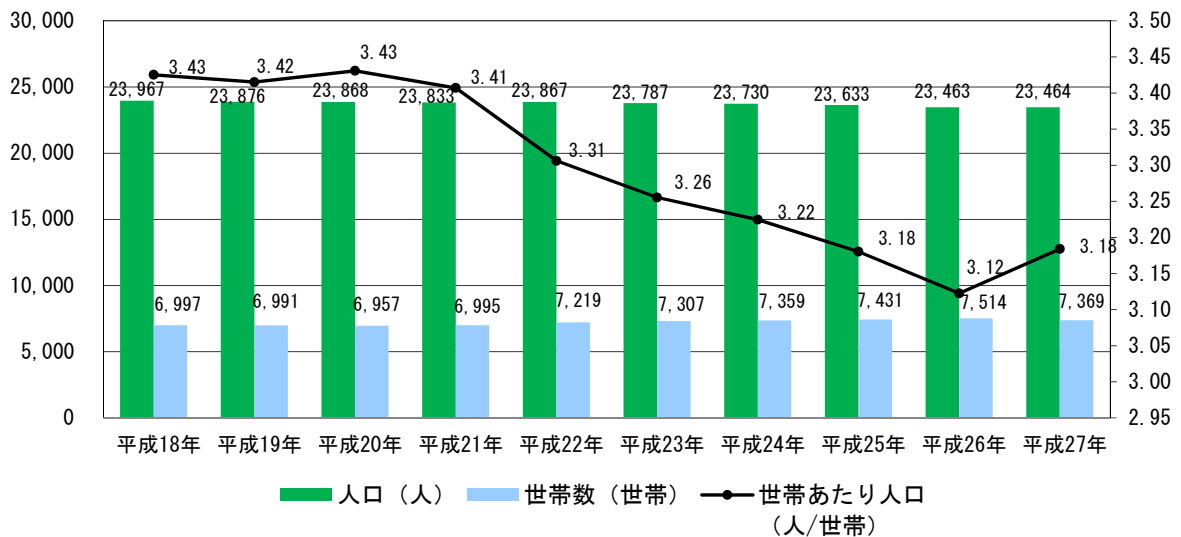


図1-6 人口・世帯の推移

② 3階級別人口

平成元年(1989年)から平成26年(2014年)までの3階級別人口の推移を見ると、表1-4、図1-7のとおり15歳未満の年少人口が減少し、65歳以上の高齢人口が増加していることが分かります。

表1-4 3階級別人口の推移

年次	15歳未満		15歳～64歳		65歳以上		総計	
	人口(人)	比率(%)	人口(人)	比率(%)	人口(人)	比率(%)	人口(人)	比率(%)
平成 元年	4,377	20.8	14,250	67.6	2,446	11.6	21,073	100.0
平成 5年	4,103	18.8	14,882	68.3	2,811	12.9	21,796	100.0
平成10年	3,921	17.3	15,382	67.7	3,410	15.0	22,713	100.0
平成15年	4,059	17.3	15,458	65.7	4,005	17.0	23,522	100.0
平成20年	3,888	16.3	15,206	63.7	4,774	20.0	23,868	100.0
平成26年	3,530	15.0	14,077	60.0	5,834	24.9	23,463	100.0

※平成26年の人口の内、22名は年齢不詳

出典：岐阜県人口動態統計調査（毎年10月1日）

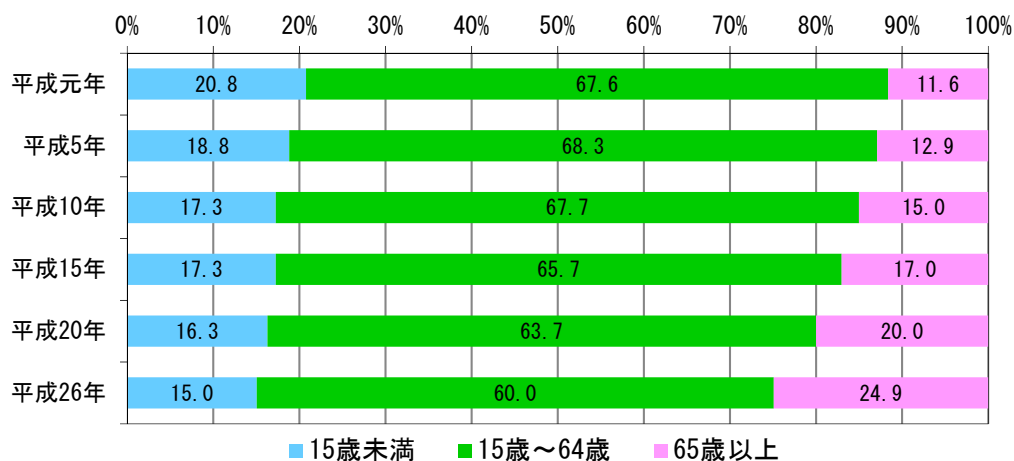


図 1-7 3階級別人口の推移

③ 人口動態

平成 17 年（2005 年）から平成 27 年（2015 年）までの人口動態の推移を見ると、表 1-5、図 1-8 のとおり、平成 17 年（2005 年）、平成 18 年（2006 年）、平成 21 年（2009 年）を除いて各年とも死亡が出生を上回っています。社会動態についても、平成 17 年（2005 年）、平成 19 年（2007 年）を除いて転出が転入を上回っており、人口は微減で推移しています。

表 1-5 人口動態の推移

年次	自 然 動 態			社 会 動 態			増減計
	出生	死亡	差引	転入	転出	差引	
平成 17 年	194	172	22	994	826	168	190
平成 18 年	197	186	11	825	920	△ 95	△ 84
平成 19 年	189	212	△ 23	855	841	14	△ 9
平成 20 年	160	184	△ 24	826	837	△ 11	△ 35
平成 21 年	203	199	4	684	727	△ 43	△ 39
平成 22 年	156	212	△ 56	772	791	△ 19	△ 75
平成 23 年	166	216	△ 50	718	728	△ 10	△ 60
平成 24 年	183	247	△ 64	690	709	△ 19	△ 83
平成 25 年	182	245	△ 63	643	726	△ 83	△ 146
平成 26 年	156	252	△ 96	630	713	△ 83	△ 179
平成 27 年	155	215	△ 60	583	755	△ 172	△ 232

出典：岐阜県人口動態統計調査（毎年 10 月 1 日）

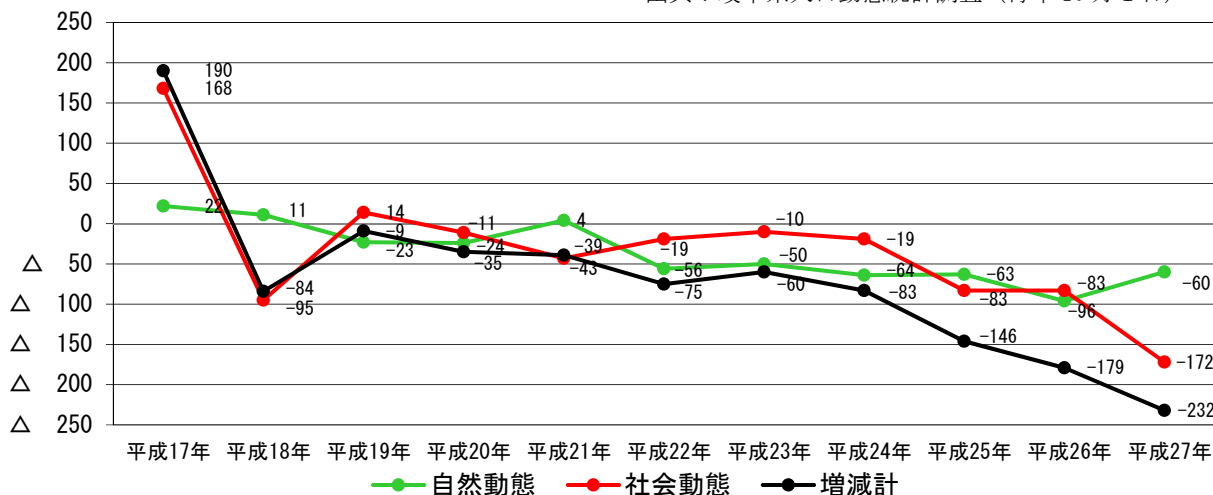


図 1-8 人口動態の推移

④ 人口集中地区（D I D）の変遷

人口集中地区（D I D）の変遷を見ると、表1-6、図1-9、1-10 のとおり人口は平成12年（2000年）6,418人、面積は平成7年（1995年）の160haをピークに減少しており、平成22年（2010年）には人口5,231人、面積121haまで減少しています。平成22年（2010年）の総人口は平成12年（2000年）に比べ増加していることから、人口は拡散していると言えます。

表1-6 人口集中地区（D I D）の変遷

年次	人口集中地区（D I D）			全町			全町に対する割合	
	人口 (人)	面積 (ha)	人口密度 (人/ha)	人口 (人)	面積 (ha)	人口密度 (人/ha)	人口 (%)	面積 (%)
昭和55年	5,621	140	40.2	19,127	3,418	5.6	29.4	4.1
昭和60年	5,785	140	41.3	20,342	3,418	6.0	28.4	4.1
平成2年	5,631	140	40.2	21,044	3,418	6.2	26.8	4.1
平成7年	6,414	160	40.1	22,079	3,418	6.5	29.1	4.7
平成12年	6,418	158	40.6	23,071	3,418	6.7	27.8	4.6
平成17年	6,142	157	39.1	23,788	3,418	7.0	25.8	4.6
平成22年	5,231	121	43.2	23,859	3,418	7.0	21.9	3.5

出典：国勢調査

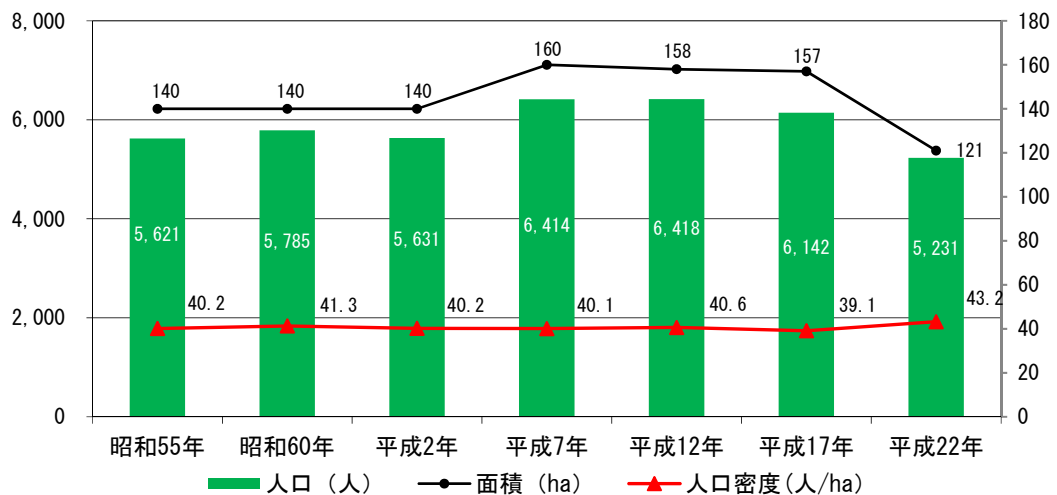


図1-9 人口集中地区（D I D）の変遷

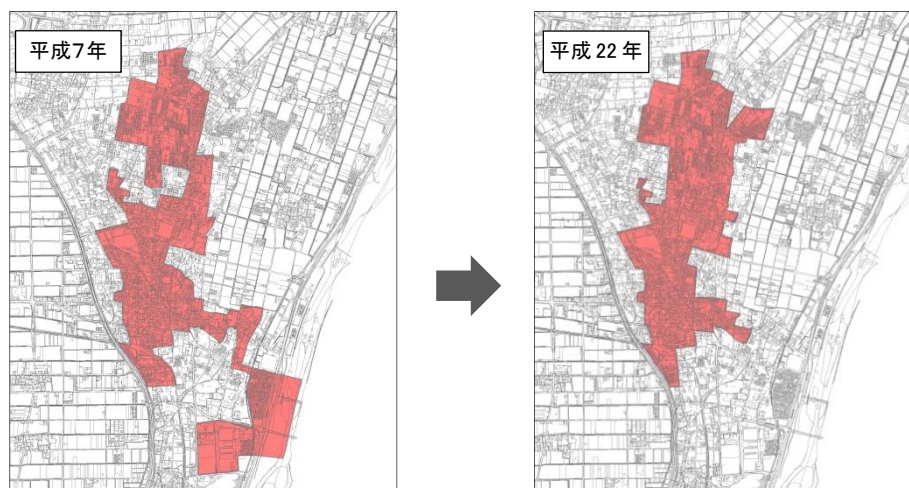


図1-10 人口集中地区（D I D）位置図

(4) 産業

① 製造業の事業所数、従業者数および製造品出荷額等の推移

平成 10 年（1998 年）から平成 25 年（2013 年）までの工業の推移を見ると、表 1-7、図 1-11 のとおり製造品出荷額等は平成 12 年（2000 年）から平成 20 年（2008 年）までは 600 億円を超える出荷額で推移していましたが、平成 21 年（2009 年）に 338 億円と半減し、その後は横ばいで推移し平成 25 年（2013 年）は 326 億円となっています。

従業者数についても、製造品出荷額等と同様に平成 20 年（2008 年）までは 2,500 人前後で推移していましたが、平成 21 年（2009 年）に 1,518 人と平成 20 年（2008 年）の 2,362 人と比べ 844 人と大幅に減少し、その後は横ばいで推移し平成 25 年（2013 年）は 1,612 人となっています。これは、平成 21 年（2009 年）のパナソニックエレクトロニックデバイス岐阜工場の撤退が大きく影響しています。

また、製造業事業所数は、平成 10 年（1998 年）の 116 件から平成 25 年（2013 年）には 69 件まで減少しています。

表 1-7 製造業の事業所数、従業者数および製造品出荷額等の推移

	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年
製造品出荷額等(億円)	592	517	609	684	619	670	713	715
製造業従業者数(人)	2,650	2,470	2,544	3,321	2,765	2,672	2,555	2,515
製造業事業所数(件)	116	109	106	100	92	89	77	80
	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
製造品出荷額等(億円)	714	705	655	338	326	297	328	326
製造業従業者数(人)	2,513	2,470	2,362	1,518	1,587	1,460	1,561	1,612
製造業事業所数(件)	76	73	74	69	71	65	69	69

出典：経済産業省「工業統計」H2～H25、H23 年のみ総務省「H24-経済センサス活動調査」

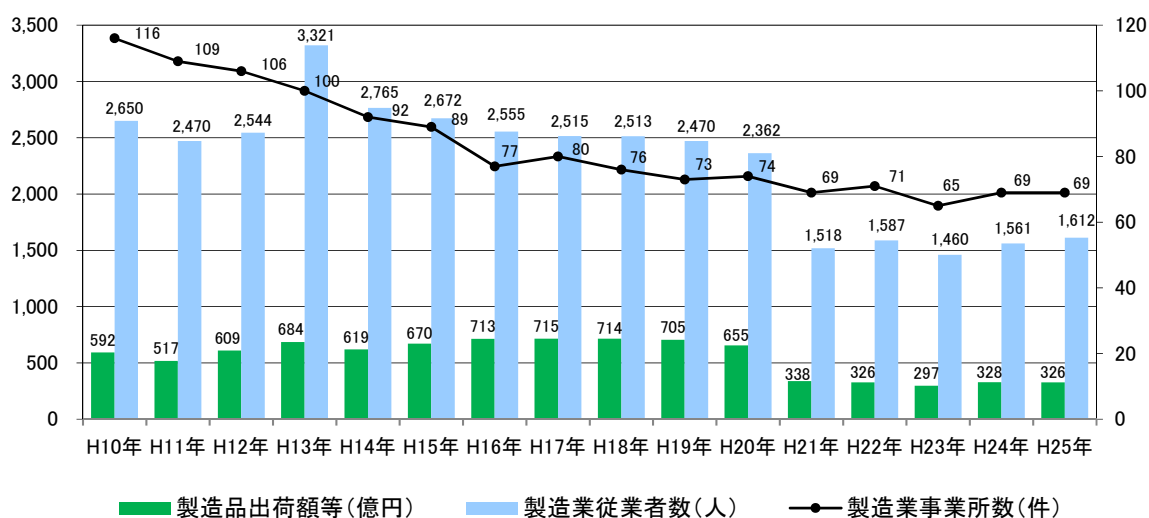


図 1-11 製造業の事業所数、従業者数および製造品出荷額等の推移

② 商品販売額の推移

平成3年（1991年）から平成24年（2012年）までの商品販売額の推移を見ると、表1-8、図1-12のとおり平成9年（1997年）の219.3億円をピークに減少傾向にあり、平成24年（2012年）には179.4億円となっています。

表1-8 商品販売額の推移

	平成3年	平成6年	平成9年	平成10年	平成14年	平成19年	平成24年
小 売 業	128.6	183.0	199.0	193.2	184.8	153.7	159.1
一般卸売業	40.4	33.9	20.3	25.0	23.1	56.1	20.3
合計（億円）	169.0	216.9	219.3	218.2	207.9	209.8	179.4

出典：商業統計調査

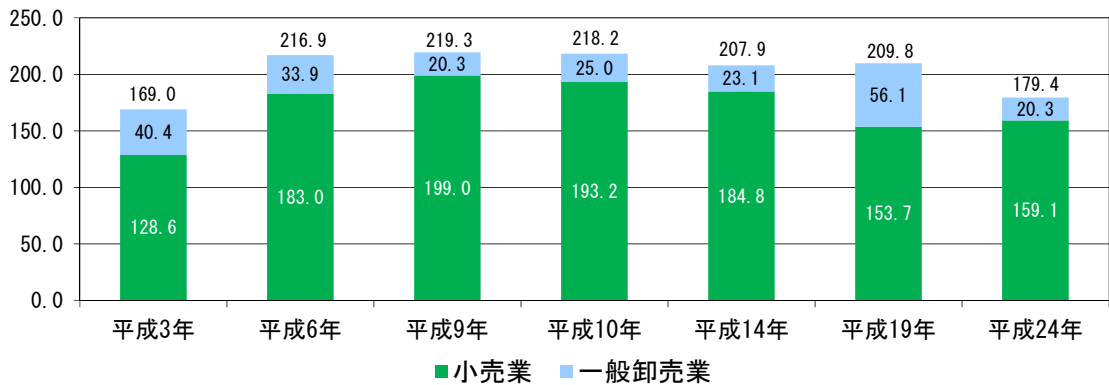


図1-12 商品販売額の推移

本町の主な商業施設の立地状況を見ると、表1-9、図1-13のとおり1,000㎡以上の商業施設7店舗が開設され、国道303号と県道深坂大野線の交差点西側付近に5店舗、黒野地区の県道岐阜大野線沿道に2店舗が立地しています。2箇所に集中して立地していることから、徒歩圏800m※でカバーできる範囲は限られています。

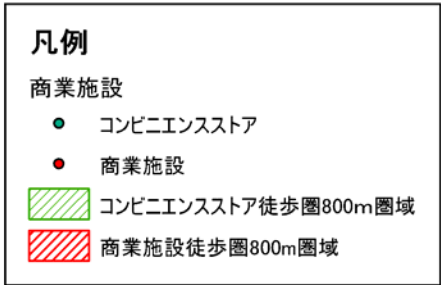
また、コンビニエンスストアは、7店舗が幹線道路沿道に立地しています。

※徒歩圏800m：「都市構造の評価に関するハンドブック」（平成26年（2014年）8月国土交通省都市局都市計画課）の「生活サービス施設」に採用された一般的な徒歩圏である半径800m

表1-9 主な商業施設

区分	施設名	開設年	店舗面積（㎡）
主 要 な 商 業 施 設	大野ショッピングセンター	1992年	1,400
	平和堂大野店	1992年	8,391
	マツオカ大野店	1993年	1,240
	カネスエ大野店	1993年	6,219
	ビバホーム大野店	1993年	3,399
	三洋堂書店大野店	1999年	2,406
	ゲンキー大野町店	2005年	2,996
コンビニエンスストア	ミニストップ大野町稲富店	—	—
	サークルK五之里店	—	—
	セブンイレブン岐阜大野町五之里店	—	—
	ローソン揖斐大野店	—	—
	ミニストップ岐阜下磯店	—	—
	サークルK揖斐黒野店	—	—
	サークルK大野黒野店	—	—

出典：全国大型小売店総覧2015年版、事業者HP



出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

③ 農業の推移

平成2年（1990年）から平成22年（2010年）までの農業の推移を見ると、表1-10、図1-14のとおり農家数、農業就業人口および経営耕地面積とも減少傾向で推移しています。

表1-10 農業の推移

年次	農家数					農業就業人口（人）	経営耕地面積（ha）
	総数	専業農家数	第1種兼業農家数	第2種兼業農家数	自給的農家		
平成2年	1,684	117	68	1,499	197	2,190	1,400
平成7年	1,558	124	111	1,323	201	1,939	1,330
平成12年	1,487	103	131	963	290	1,724	1,280
平成17年	1,326	126	117	776	307	1,667	1,230
平成22年	1,161	107	75	615	364	1,059	1,040

出典：農林業センサス

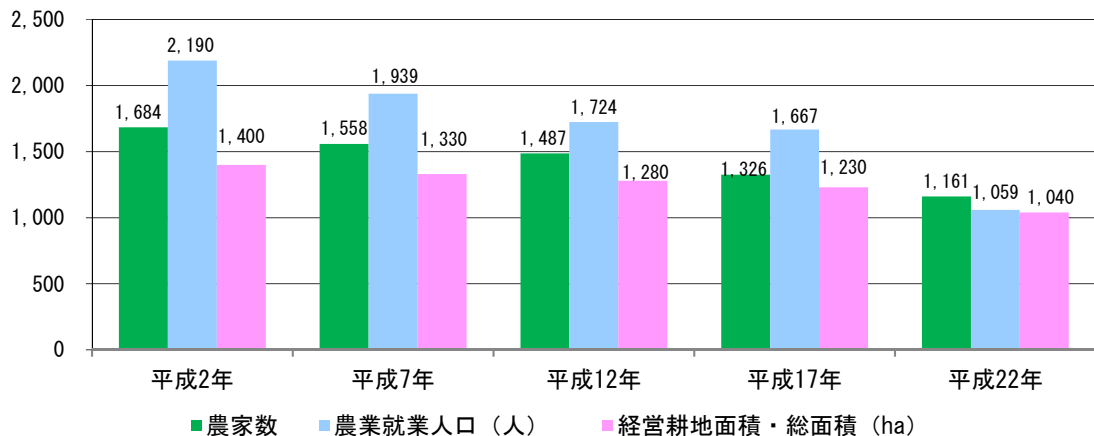


図1-14 農家数の推移

④ 観光

本町の観光は、豊富な文化財が存在するほか、森林散策空間や揖斐二度ザクラ、おおの温泉、バラ公園および平成25年（2013年）に完成した黒野駅レールパークなどがあります。

一方、観光入込客延べ人数の推移を見ると、表1-11、図1-15のとおり年間約15万人前後で推移していますが、周辺市町と比較して少ない状況となっています。



表1-11 観光地点別入込客延べ人数の推移

市町名	平成23年	平成24年	平成25年
大野町	148,289	162,131	152,663
揖斐川町	2,041,298	1,872,461	1,792,394
池田町	1,024,814	1,061,639	1,020,246
本巣市	800,717	763,073	765,510

出典：岐阜県統計書

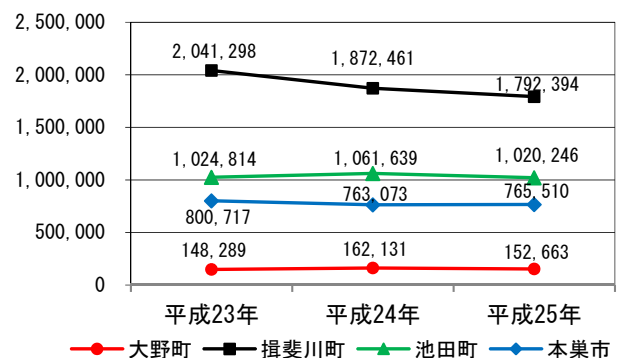


図1-15 観光地点別入込客延べ人数の推移

(5) 土地・建物利用

① 土地利用現況

本町の土地利用現況の状況を見ると、表 1-12、図 1-16、図 1-17 のとおり農地や山林などの自然的土地利用が約 70%を占めています。宅地では、住宅用地が 9.5%、次いで工業用地 4.2%、商業用地 1.0%となっています。

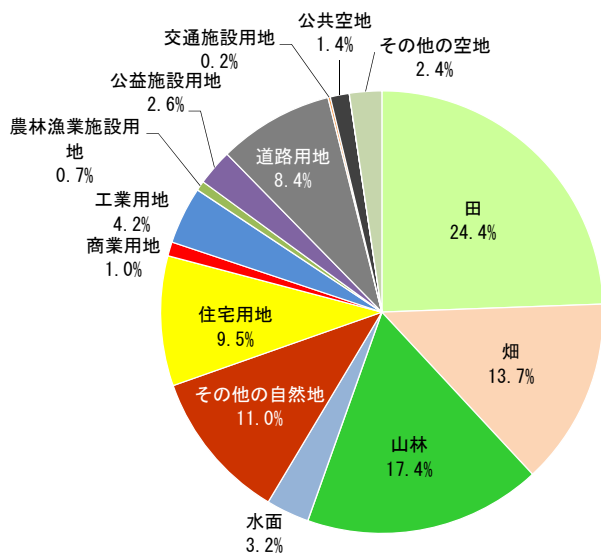


図 1-16 土地利用現況

表 1-12 土地利用現況

区分	種別	面積 (ha)	比率 (%)
自然的地利用	田	834.69	24.4
	畑	467.03	13.7
	山林	593.13	17.4
	水面	107.68	3.2
	その他の自然地	376.90	11.0
	小計	2,379.43	69.6
都市的地利用	住宅用地	324.28	9.5
	商業用地	35.07	1.0
	工業用地	143.17	4.2
	農林漁業施設用地	24.33	0.7
	公益施設用地	90.03	2.6
	道路用地	287.84	8.4
	交通施設用地	5.76	0.2
	公共空地	47.50	1.4
	その他の空地	80.59	2.4
	小計	1,038.57	30.4
総計		3,418.00	100.00

出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

※総計面積：現在、町の総面積は 3,420ha となっているが、都市計画区域の決定面積はまだ変更されていないため 3,418ha のままとした。

② 未利用地現況

名鉄廃線敷や資材置き場、改変中の土地などの未利用地の状況を見ると、表 1-13、図 1-18 のとおり面積は 80.59ha となっています。そのうち、前回調査（平成 21 年度）で見られなかった太陽光パネル用地が 2.58ha となっており、町内に点在しています。太陽光パネル用地について転用前の土地利用を見ると、表 1-14 のとおり、その多くが農地や住宅用地などを転用して配置されています。

表 1-13 未利用地

未利用地	うち太陽光パネル用地	
80.59ha	2.58ha	3.2%

※未利用地：都市計画基礎調査（平成 27 年度）のその他の空地（平面駐車場、資材置き場、改変中の土地など）

※調整池や工場敷地内に設置されているところは除く

表 1-14 転用前の土地利用現況

		農地	住宅用地	遊休地、資材置き場等	合計
太陽光パネル用地	面積 (ha)	1.30	0.36	0.92	2.58
	比率 (%)	50.4	14.0	35.7	100.0

出典：平成 21 年度（2009 年度）都市計画基礎調査

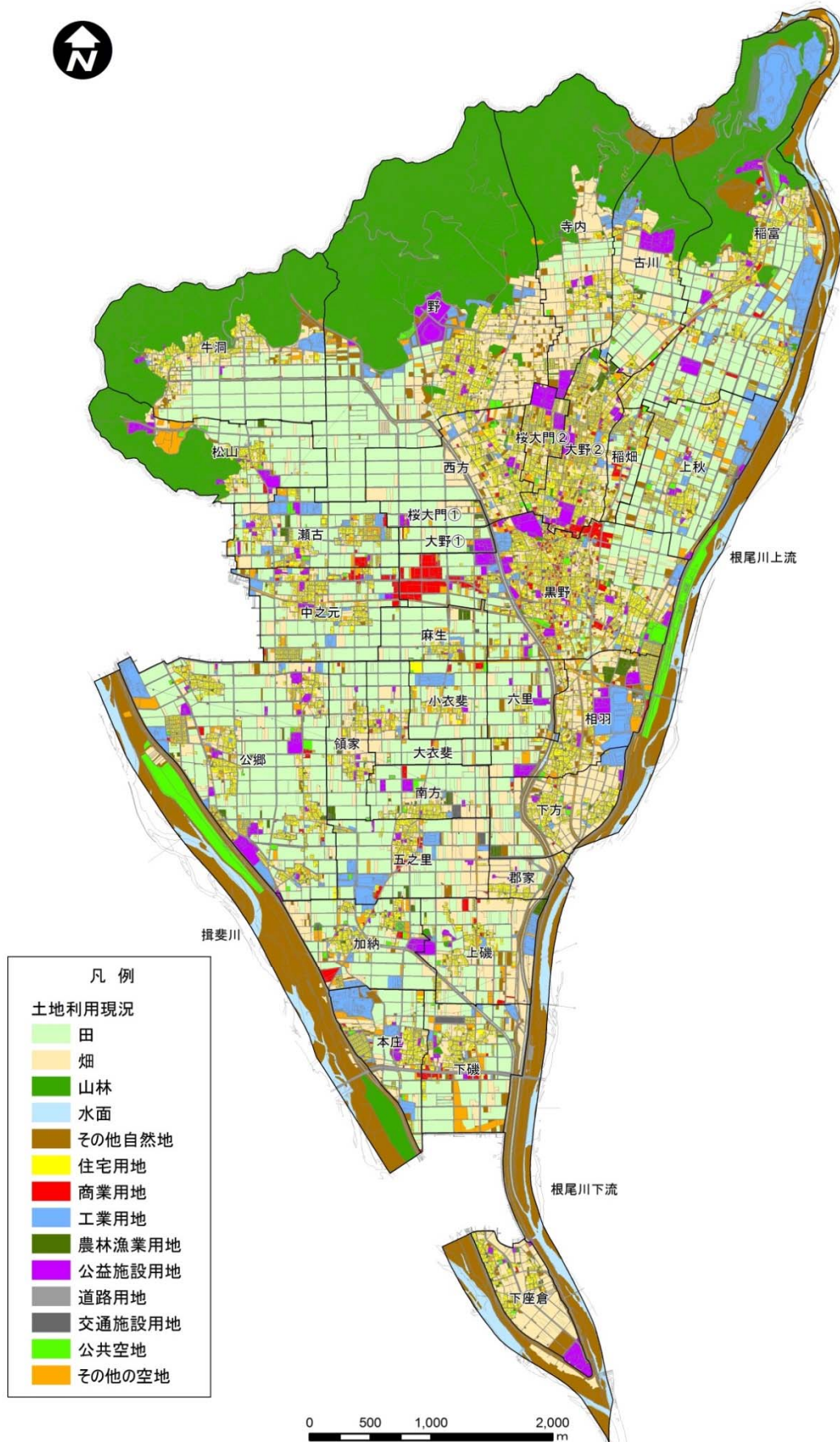


図 1-17 土地利用現況図

出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

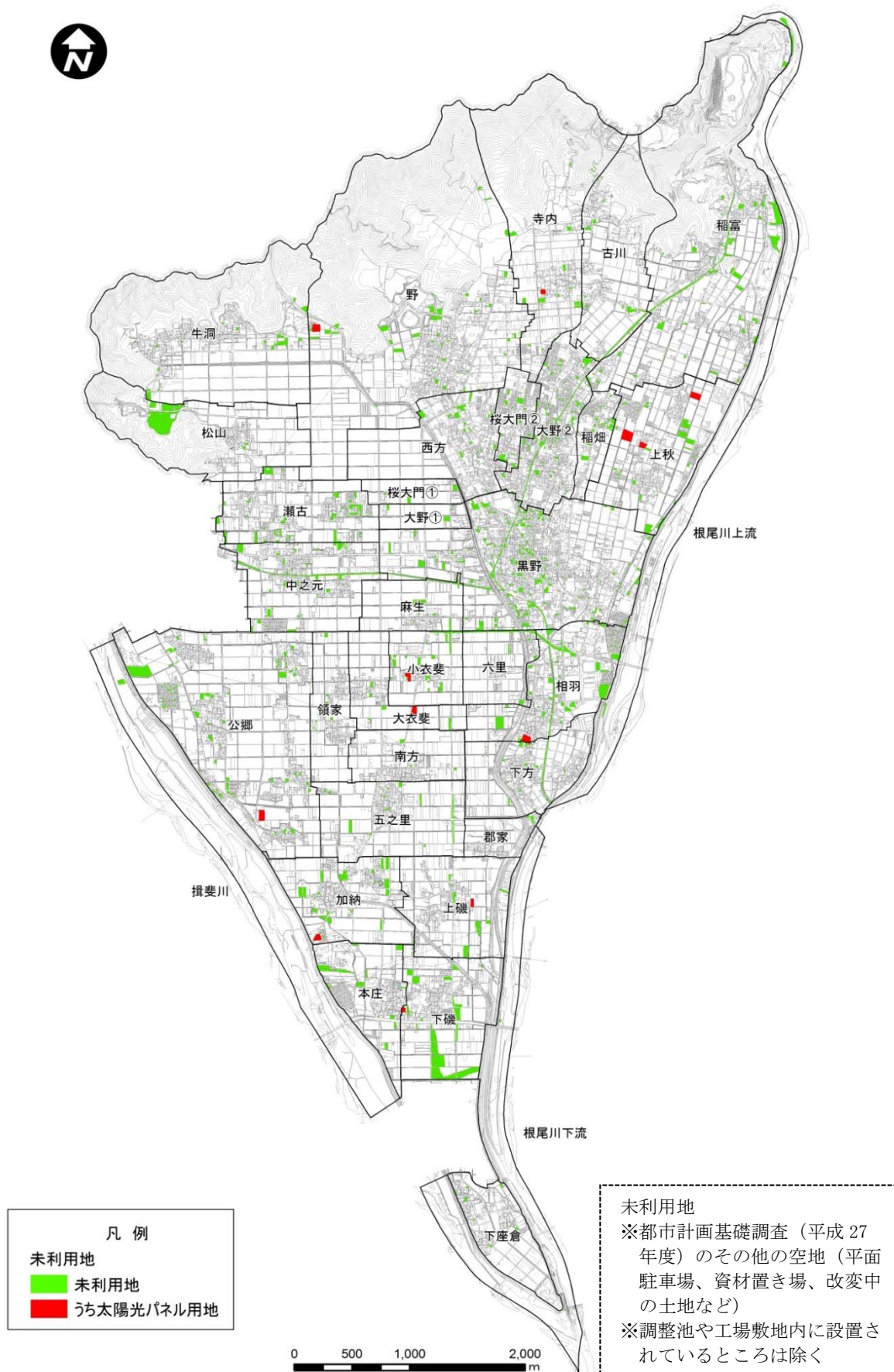


図 1-18 未利用地分布図

出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

③ 建物用途別現況

建物用途別現況の状況を見ると、表1-15、図1-19および図1-20のとおり町全体では住居系建物が77.3%立地し、次いで工業系が9.2%となっています。地区別に見ると、表1-16のとおり町の中心である黒野地区では商業系建物が8.6%と他の地区と比べ高くなっています。工業系建物については、比較的分散して見られます。

表1-15 建物用途別現況

区 名	住居系		商業系		工業系		公共系		その他		合計	
	棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)
大野町第1区	4,777	76.4	374	6.0	486	7.8	286	4.6	330	5.3	6,253	100.0
大野町第2区	5,056	83.5	125	2.1	384	6.3	239	3.9	253	4.2	6,057	100.0
大野町第3区	3,565	74.3	87	1.8	600	12.5	294	6.1	251	5.2	4,797	100.0
大野町第4区	2,323	78.1	71	2.4	282	9.5	173	5.8	124	4.2	2,973	100.0
大野町第5区	2,197	77.9	60	2.1	192	6.8	159	5.6	211	7.5	2,819	100.0
大野町第6区	3,175	72.6	118	2.7	574	13.1	172	3.9	332	7.6	4,371	100.0
町全体	21,093	77.3	835	3.1	2,518	9.2	1,323	4.9	1,501	5.5	27,270	100.0

出典：平成27年度（2015年度）都市計画基礎調査

※建物用途区分 住居系：住宅、共同住宅、店舗等併用住宅、店舗等併用共同住宅
 商業系：業務施設、商業施設、宿泊施設、商業系用途複合施設
 工業系：工場、運輸倉庫施設、供給処理施設
 その他：官公庁施設、文教厚生施設、農林漁業用施設、その他

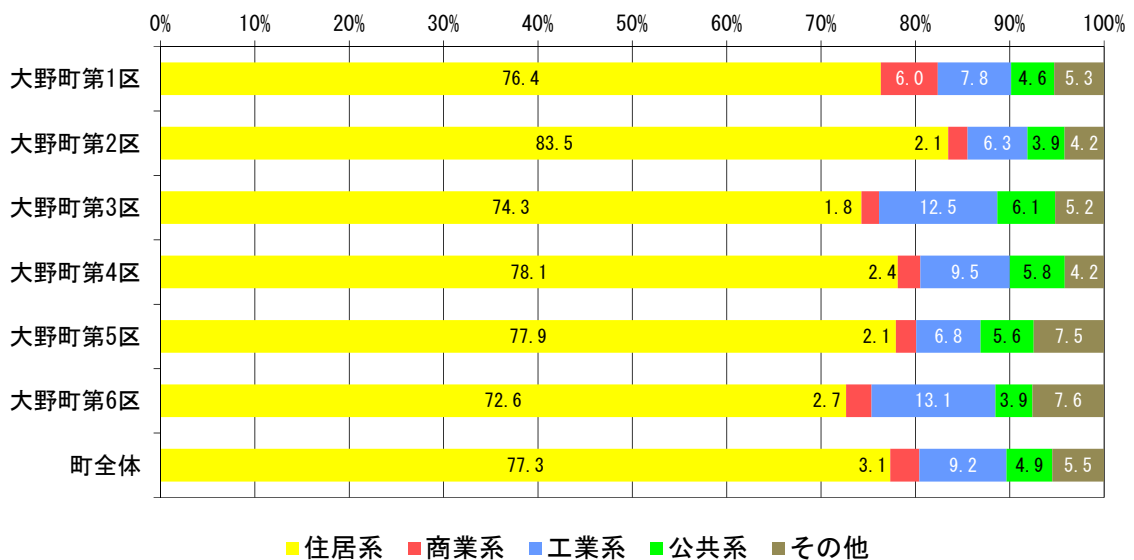


図1-19 建物用途別現況

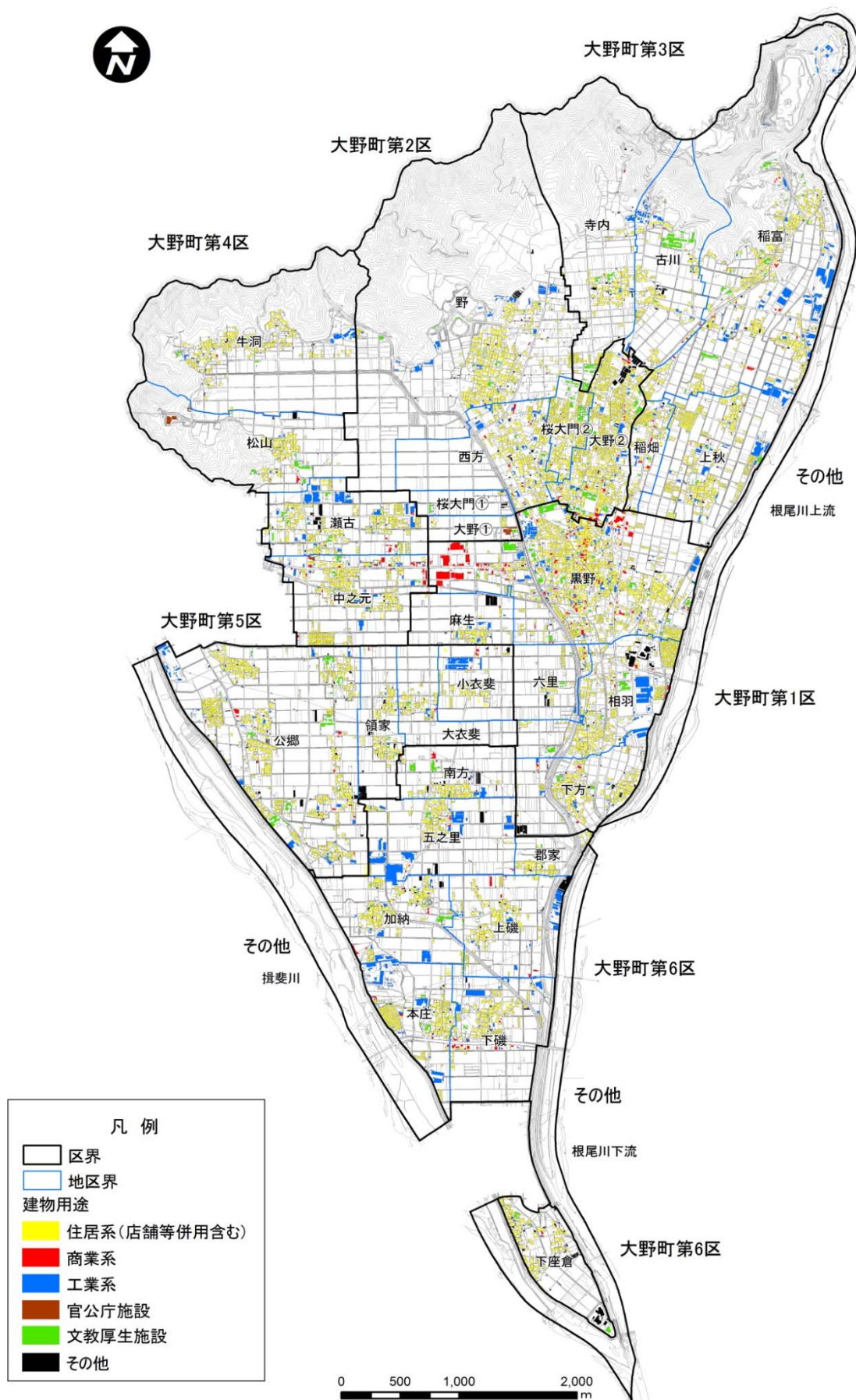


図 1-20 建物用途別現況図

出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

表 1-16 地区別建物用途別現況

区名	地区名	住居系		商業系		工業系		公共系		その他		合計	
		棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)
大野町 第 1 区	下 方	543	78.6	10	1.4	48	6.9	19	2.7	71	10.3	691	100.0
	黒 野	2,972	74.4	342	8.6	335	8.4	202	5.1	146	3.7	3,997	100.0
	相 羽	958	82.8	15	1.3	61	5.3	47	4.1	76	6.6	1,157	100.0
	麻 生	153	78.1	2	1.0	21	10.7	3	1.5	17	8.7	196	100.0
	六 里	151	71.2	5	2.4	21	9.9	15	7.1	20	9.4	212	100.0
	小 計	4,777	76.4	374	6.0	486	7.8	286	4.6	330	5.3	6,253	100.0
大野町 第 2 区	桜大門①	7	26.9	1	3.8	0	0.0	4	15.4	14	53.8	26	100.0
	桜大門②	760	90.3	6	0.7	9	1.1	54	6.4	13	1.5	842	100.0
	西 方	958	83.3	27	2.3	99	8.6	15	1.3	51	4.4	1,150	100.0
	大 野 ①	29	55.8	1	1.9	5	9.6	16	30.8	1	1.9	52	100.0
	大 野 ②	2,086	85.7	81	3.3	115	4.7	82	3.4	69	2.8	2,433	100.0
	野	1,216	78.2	9	0.6	156	10.0	68	4.4	105	6.8	1,554	100.0
	小 計	5,056	83.5	125	2.1	384	6.3	239	3.9	253	4.2	6,057	100.0
大野町 第 3 区	稲 富	1,204	69.8	29	1.7	263	15.3	130	7.5	98	5.7	1,724	100.0
	古 川	439	66.4	19	2.9	108	16.3	54	8.2	41	6.2	661	100.0
	寺 内	422	72.6	3	0.5	40	7.0	54	9.3	62	10.7	581	100.0
	上 秋	1,082	80.7	13	1.0	162	12.1	49	3.7	35	2.6	1,341	100.0
	稲 畑	418	85.3	23	4.7	27	5.5	7	1.4	15	3.1	490	100.0
	小 計	3,565	74.3	87	1.8	600	12.5	294	6.1	251	5.2	4,797	100.0
大野町 第 4 区	牛 洞	525	79.8	2	0.3	63	9.6	24	3.6	44	6.7	658	100.0
	松 山	285	74.2	8	2.1	12	3.1	57	14.8	22	5.7	384	100.0
	瀬 古	660	75.6	14	1.6	124	14.2	42	4.8	33	3.8	873	100.0
	中 之 元	853	80.6	47	4.4	83	7.8	50	4.7	25	2.4	1,058	100.0
	小 計	2,323	78.1	71	2.4	282	9.5	173	5.8	124	4.2	2,973	100.0
	公 郷	1,641	79.5	32	1.5	142	6.9	120	5.8	130	6.3	2,065	100.0
大野町 第 5 区	小 衣 斐	169	69.8	15	6.2	34	14.0	9	3.7	15	6.2	242	100.0
	大 衣 斐	148	76.3	8	4.1	15	7.7	11	5.7	12	6.2	194	100.0
	領 家	239	75.2	5	1.6	1	0.3	19	6.0	54	17.0	318	100.0
	小 計	2,197	77.9	60	2.1	192	6.8	159	5.6	211	7.5	2,819	100.0
	下 磯	481	75.5	31	4.9	63	9.9	23	3.6	39	6.1	637	100.0
大野町 第 6 区	下 座 倉	339	71.5	2	0.4	27	5.7	18	3.8	88	18.6	474	100.0
	加 納	507	72.2	16	2.3	96	13.7	40	5.7	43	6.1	702	100.0
	郡 家	140	87.0	0	0.0	1	0.6	8	5.0	12	7.5	161	100.0
	五 之 里	302	59.0	23	4.5	145	28.3	17	3.3	25	4.9	512	100.0
	上 磯	453	74.5	16	2.6	74	12.2	17	2.8	48	7.9	608	100.0
	南 方	201	71.0	9	3.2	19	6.7	12	4.2	42	14.8	283	100.0
	本 庄	752	75.7	21	2.1	149	15.0	37	3.6	35	3.5	994	100.0
	小 計	3,175	72.6	118	2.7	574	13.1	172	3.9	332	7.6	4,371	100.0
	根尾川下流	0	0.0	0	0.0	4	80.0	0	0.0	1	20.0	5	100.0
その他	根尾川上流	0	0.0	0	0.0	8	100.0	0	0.0	0	0.0	8	100.0
	揖 斐 川	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	100.0
	小 計	0	0.0	0	0.0	12	92.3	0	0.0	1	7.7	13	100.0
町全体		21,093	77.3	835	3.1	2,530	9.3	1,323	4.8	1,502	5.5	27,283	100.0

出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

※建物用途区分 住居系：住宅、共同住宅、店舗等併用住宅、店舗等併用共同住宅
 商業系：業務施設、商業施設、宿泊施設、商業系用途複合施設
 工業系：工場、運輸倉庫施設、供給処理施設
 その他：官公庁施設、文教厚生施設、農林漁業用施設、その他

④ 建物構造

建物構造別現況の状況を見ると、表 1-17、図 1-21 のとおり町全体では木造建物が 71.5%、非木造建物が 28.5%となっています。地区別に木造建物の棟数比率を見ると、表 1-18、図 1-22 のとおり町中心である大野②地区や桜大門②地区および稲畑地区では木造棟数比率が 80%以上と高くなっています。

表 1-17 建物構造

区名	木造		非木造		合計	
	棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)
大野町第 1 区	3,162	70.6	1,316	29.4	4,478	100.0
大野町第 2 区	3,358	76.4	1,039	23.6	4,397	100.0
大野町第 3 区	2,451	74.3	849	25.7	3,300	100.0
大野町第 4 区	1,476	65.7	771	34.3	2,247	100.0
大野町第 5 区	1,537	72.0	598	28.0	2,135	100.0
大野町第 6 区	2,102	66.7	1,051	33.3	3,153	100.0
町 全 体	14,086	71.5	5,624	28.5	19,710	100.0

※不明の建物は除く

出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

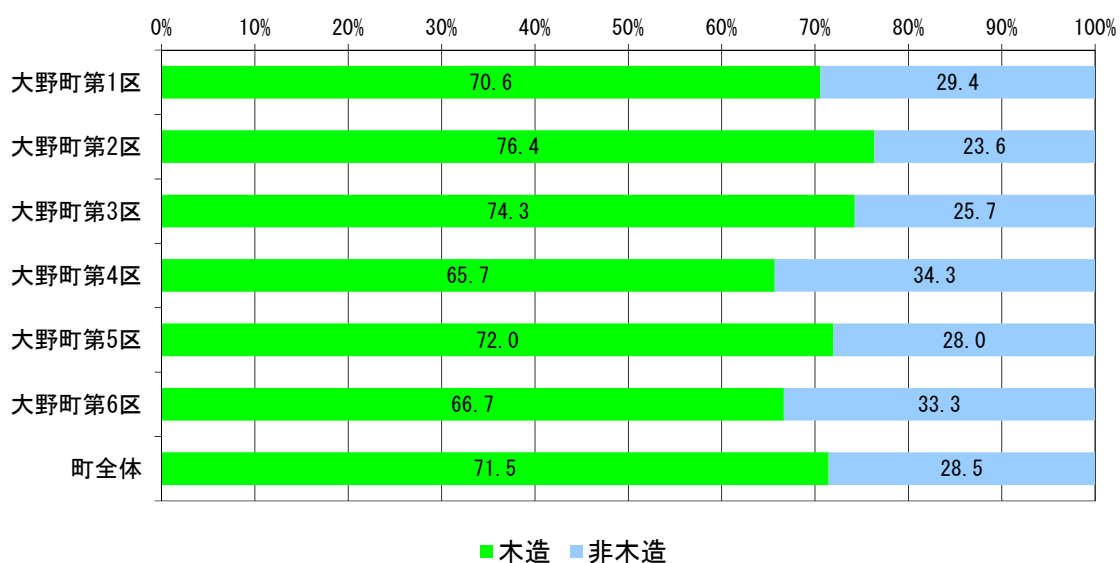


図 1-21 建物構造

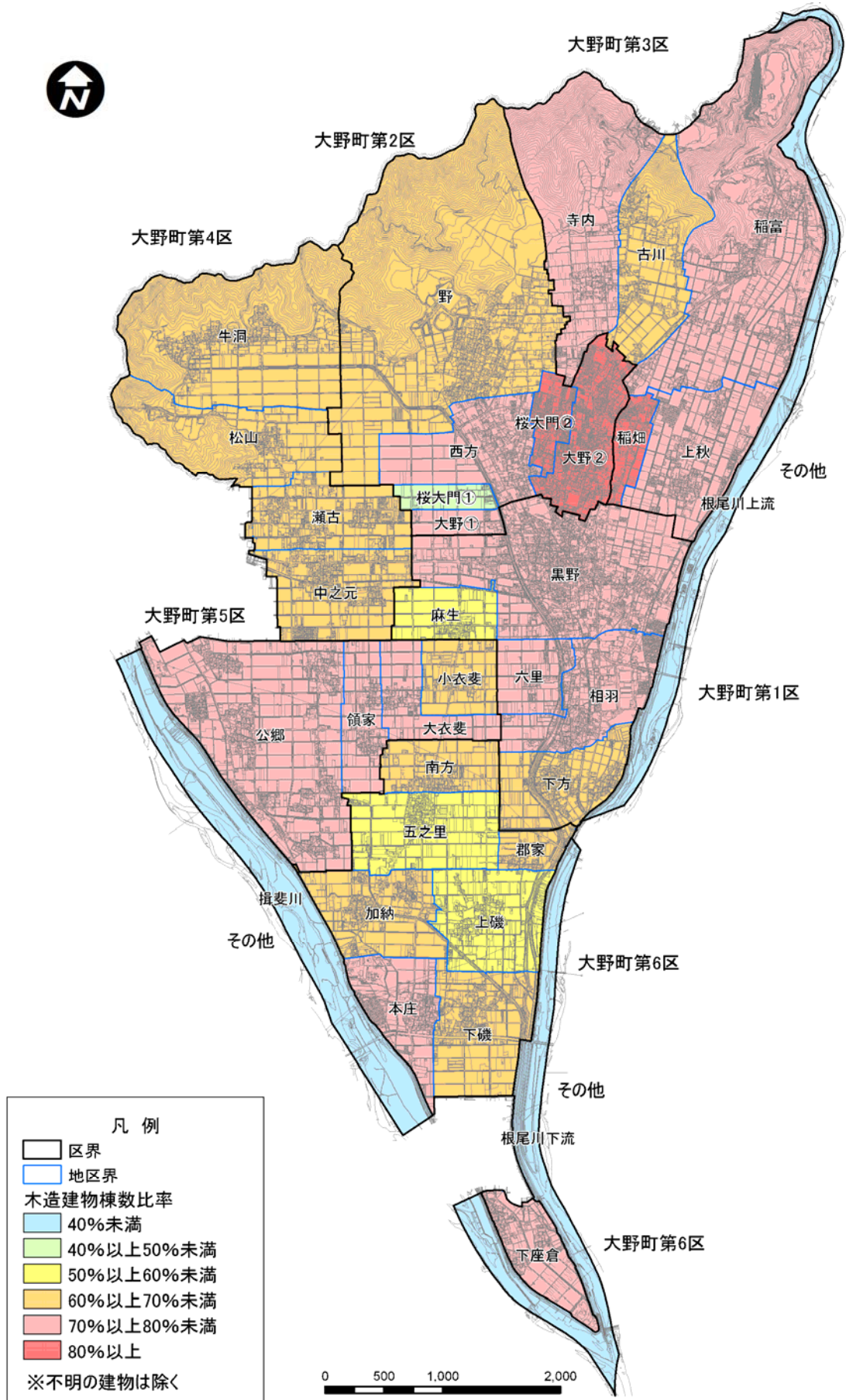


図 1-22 地区別木造建物棟数比率図

出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

表 1-18 地区別建物構造

区名	地区名	木造		非木造		合計	
		棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)
大野町第 1 区	下 方	297	60.2	196	39.8	493	100.0
	黒 野	2,058	71.6	815	28.4	2,873	100.0
	相 羽	616	75.1	204	24.9	820	100.0
	麻 生	78	56.9	59	43.1	137	100.0
	六 里	113	72.9	42	27.1	155	100.0
	小 計	3,162	70.6	1,316	29.4	4,478	100.0
大野町第 2 区	桜 大 門 ①	4	40.0	6	60.0	10	100.0
	桜 大 門 ②	536	84.0	102	16.0	638	100.0
	西 方	637	72.2	245	27.8	882	100.0
	大 野 ①	18	75.0	6	25.0	24	100.0
	大 野 ②	1,424	80.2	352	19.8	1,776	100.0
	野	739	69.3	328	30.7	1,067	100.0
	小 計	3,358	76.4	1,039	23.6	4,397	100.0
大野町第 3 区	稲 富	949	73.9	335	26.1	1,284	100.0
	古 川	270	68.9	122	31.1	392	100.0
	寺 内	302	79.5	78	20.5	379	100.0
	上 秋	659	72.7	248	27.3	907	100.0
	稲 畑	271	80.4	66	19.6	337	100.0
	小 計	2,451	74.3	849	25.7	3,299	100.0
大野町第 4 区	牛 洞	336	65.2	179	34.8	515	100.0
	松 山	195	68.4	90	31.6	285	100.0
	瀬 古	440	64.7	240	35.3	680	100.0
	中 之 元	505	65.8	262	34.2	767	100.0
	小 計	1,476	65.7	771	34.3	2,247	100.0
大野町第 5 区	公 郷	1,126	71.9	441	28.1	1,567	100.0
	小 衣 斐	121	69.5	53	30.5	174	100.0
	大 衣 斐	106	71.6	42	28.4	148	100.0
	領 家	184	74.8	62	25.2	246	100.0
	小 計	1,537	72.0	598	28.0	2,135	100.0
大野町第 6 区	下 磯	330	69.9	142	30.1	472	100.0
	下 座 倉	248	70.9	102	29.1	350	100.0
	加 納	354	67.3	172	32.7	526	100.0
	郡 家	84	68.9	38	31.1	122	100.0
	五 之 里	202	56.4	156	43.6	358	100.0
	上 磯	263	56.6	202	43.4	465	100.0
	南 方	140	68.0	66	32.0	206	100.0
	本 庄	481	73.5	173	26.5	654	100.0
	小 計	2,102	66.7	1,051	33.3	3,153	100.0
そ の 他	根尾川下流	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	根尾川上流	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	揖 斐 川	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	小 計	0	0.0	0	0.0	0	0.0
町全体		14,086	71.5	5,624	28.5	19,710	100.0

※不明な建物を除く

出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

⑤ 建築年代別現況

建築年代別現況の状況を見ると、表 1-19、図 1-23 のとおり町全体では新耐震基準である昭和 57 年（1982 年）以降の建物が 46.3%、新耐震基準以前である昭和 56 年（1981 年）以前の建物が 53.7%となっています。地区別に新耐震基準以前の棟数比率を見ると、表 1-20、図 1-24 のとおり町の中心である松山地区では 70%以上と高く、野地区や稲富地区および相羽地区などでも 60%以上となっています。木造棟数比率が高かった中心部の稲畑地区や大野②地区および桜大門地区では、50%未満と町の中でも比較的低い比率となっています。

表 1-19 建築年代別現況

区名	昭和 45 年以前		昭和 46 年～昭和 56 年		昭和 57 年以降		総計	
	棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)
大野町第 1 区	1,070	29.5	1,026	28.2	1,536	42.3	3,632	100.0
大野町第 2 区	895	25.7	926	26.6	1,656	47.6	3,477	100.0
大野町第 3 区	766	29.6	619	24.0	1,199	46.4	2,584	100.0
大野町第 4 区	533	28.6	540	29.0	789	42.4	1,862	100.0
大野町第 5 区	602	33.5	370	20.6	825	45.9	1,797	100.0
大野町第 6 区	675	26.6	511	20.1	1,354	53.3	2,540	100.0
町 全 体	4,541	28.6	3,992	25.1	7,359	46.3	15,892	100.0

※不明の建物は除く

出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

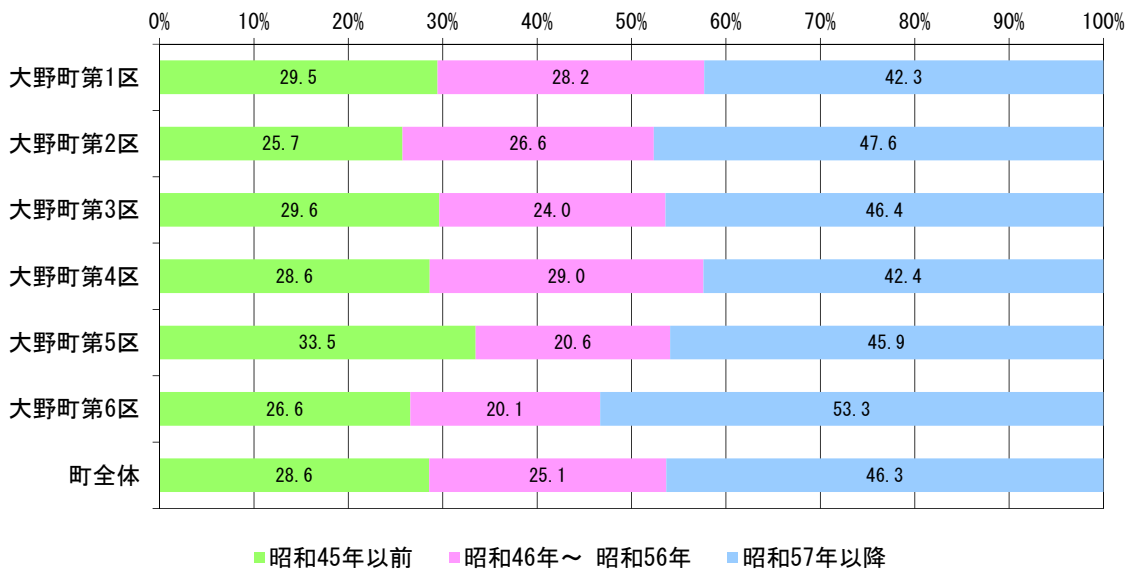
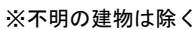


図 1-23 建築年代別現況



出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

表 1-20 地区別建築年代別現況

区名	地区名	S45 年以前		S46 年～ S56 年		S57 年 以降		総計	
		棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)	棟数	比率 (%)
大野町第 1 区	下 方	150	36.4	98	23.8	164	39.8	412	100.0
	黒 野	715	31.2	596	26.0	979	42.8	2,290	100.0
	相 羽	124	18.6	279	41.8	265	39.7	668	100.0
	麻 生	43	33.9	21	16.5	63	49.6	127	100.0
	六 里	38	28.1	32	23.7	65	48.1	135	100.0
	小 計	1,070	29.5	1,026	28.2	1,536	42.3	3,632	100.0
大野町第 2 区	桜 大 門 ①	0	0.0	2	20.0	8	80.0	10	100.0
	桜 大 門 ②	78	16.4	153	32.1	245	51.5	476	100.0
	西 方	186	25.8	207	28.8	327	45.4	720	100.0
	大 野 ①	0	0.0	0	0.0	19	100.0	19	100.0
	大 野 ②	268	19.8	384	28.4	699	51.7	1,351	100.0
	野	363	40.3	180	20.0	358	39.7	901	100.0
	小 計	895	25.7	926	26.6	1,656	47.6	3,477	100.0
大野町第 3 区	稲 富	395	39.0	229	22.6	390	38.5	1,014	100.0
	古 川	89	30.1	84	28.4	123	41.6	296	100.0
	寺 内	102	38.1	54	20.1	112	41.8	268	100.0
	上 秋	150	20.4	192	26.1	394	53.5	736	100.0
	稲 畑	30	11.1	60	22.2	180	66.7	270	100.0
	小 計	766	29.6	619	24.0	1,199	46.4	2,584	100.0
大野町第 4 区	牛 洞	152	34.9	105	24.1	179	41.1	436	100.0
	松 山	115	48.7	55	23.3	66	28.0	236	100.0
	瀬 古	117	20.4	178	31.1	278	48.5	573	100.0
	中 之 元	149	24.1	202	32.7	266	43.1	617	100.0
	小 計	533	28.6	540	29.0	789	42.4	1,862	100.0
大野町第 5 区	公 郷	432	32.4	290	21.8	610	45.8	1,332	100.0
	小 衣 斐	43	30.1	21	14.7	79	55.2	143	100.0
	大 衣 斐	38	32.5	22	18.8	57	48.7	117	100.0
	領 家	89	43.4	37	18.0	79	38.5	205	100.0
	小 計	602	33.5	370	20.6	825	45.9	1,797	100.0
大野町第 6 区	下 磯	77	20.4	58	15.4	242	64.2	377	100.0
	下 座 倉	87	32.3	79	29.4	103	38.3	269	100.0
	加 納	146	35.4	80	19.4	186	45.1	412	100.0
	郡 家	46	43.0	15	14.0	46	43.0	107	100.0
	五 之 里	67	22.7	57	19.3	171	58.0	295	100.0
	上 磯	78	20.2	106	27.5	202	52.3	386	100.0
	南 方	74	44.8	30	18.2	61	37.0	165	100.0
	本 庄	100	18.9	86	16.3	343	64.8	529	100.0
	小 計	675	26.6	511	20.1	1,354	53.3	2,540	100.0
そ の 他	根尾川上流	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	根尾川下流	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	揖 斐 川	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	小 計	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
町全体		4,541	28.6	3,992	25.1	7,359	46.3	15,892	100.0

※不明な建物を除く

出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

⑥ 住宅の所有関係別住宅

住宅の所有関係別状況について見ると、表 1-21 のとおり持ち家が 6,710 戸(82.6%)、借家は 1,340 戸(16.5%)となっています。

表 1-21 住宅の所有関係別住宅

	総数	持ち家	借家					不詳
			総数	公営の借家	都市再生 機構・公 社の借家	民営借家	給与住宅	
戸数(戸)	8,120	6,710	1,340	170	-	1,120	50	70
割合(%)	100.0	82.6	16.5	2.1	0.0	13.8	0.6	0.9

出典：平成 25 年(2013 年)住宅・土地統計調査

(6) 都市施設の状況

① 都市計画道路

都市計画道路の指定状況を見ると、表 1-22、図 1-25 のとおり東西方向に北から(都)大野揖斐川線、(都)大野池田線および(都)池田岐阜線(主要地方道岐阜関ヶ原線)、南北方向に(都)大垣神戸大野線が計画されています。(都)池田岐阜線を除いて、未整備の状況となっています。

また、町の南部に東海環状自動車道および(仮称)大野・神戸インターチェンジが計画されています。

表 1-22 都市計画道路の状況

名称	計画	事業中	整備・概成済
1・3・1 東海環状自動車	500m	500m	-
3・3・1 池田岐阜線	1,720m	-	1,720m
3・4・3 大野揖斐川線	4,140m	1,060m	-
3・5・7 大野池田線	4,490m	-	-
3・4・8 大垣神戸大野線	4,980m	-	-

出典：平成 27 年度(2015 年度)都市計画基礎調査

② 公園・緑地

本町には都市計画公園は指定されていませんが、表 1-23、図 1-26 のとおり運動公園のほか、河川敷の広場、観光としての機能を持つ黒野駅レールパークやバラ公園、また、市街地や集落地には、ふれあい広場や農村公園が配置されています。

表 1-23 公園・緑地

	名称	面積(㎡)		名称	面積(㎡)
1	稲富農村公園	980	15	根尾川リバーサイドパーク	41,500
2	木振ふれあい公園	12,500	16	藪川橋西詰公園	480
3	松山水辺公園	34,700	17	相羽ふれあい広場	2,200
4	松山ふれあい広場	2,180	18	下方住吉灯明台公園	1,130
5	瀬古ふれあい広場	1,700	19	大野揖斐川パーク	20,300
6	野ふれあい広場	1,130	20	バラ公園	9,610
7	桜台団地公園	220	21	運動公園	113,000
8	桜大門ふれあい広場	2,780	22	黒野西親水広場	2,500
9	西方農村公園	500	23	揖斐二度ザクラ公園	5,300
10	大野バスセンターふれあい広場	2,060	24	黒野駅レールパーク	7,700
11	上秋ふれあい広場	2,000	25	条里公園	3,250
12	大野ふれあい広場	900	26	うぐいす公園	4,995
13	黒野ふれあい広場	850	27	やまびこ公園	800
14	黒野広場	260	合 計		275,525

出典：大野町ホームページ〔平成 28 年(2016 年)現在〕

③ 生活排水処理

本町の汚水処理人口普及率を見ると、表 1-24 のとおり、平成 27 年度（2015 年度）現在、汚水処理人口普及率 60.0%、公共下水道普及率 0.0%と、県平均や周辺市町村と比べ大きく下回っています。

表 1-24 汚水処理人口普及率（平成 27 年度末）

市町名	汚水処理 人口普及率	公共下水道 普及率
大 野 町	60.0%	0.0%
揖 斐 川 町	87.8%	8.2%
池 田 町	79.0%	48.8%
神 戸 町	82.9%	66.8%
大 垣 市	93.5%	87.7%
県 平 均	91.0%	74.8%

出典：岐阜県における平成 27 年度末の汚水処理人口普及状況について

④ その他の都市施設

その他の都市施設としては、表 1-25、図 1-25 のとおり町南部にゴミ処理施設 4.4ha、町北西部に火葬場 1.9ha が供用開始されています。

表 1-25 都市施設の状況

区 分	名称	計画	供用開始
その他の処理施設（ゴミ処理施設）	西濃環境保全センター	4.4ha	4.4ha
火葬場	揖斐広域斎場	1.9ha	1.9ha

出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

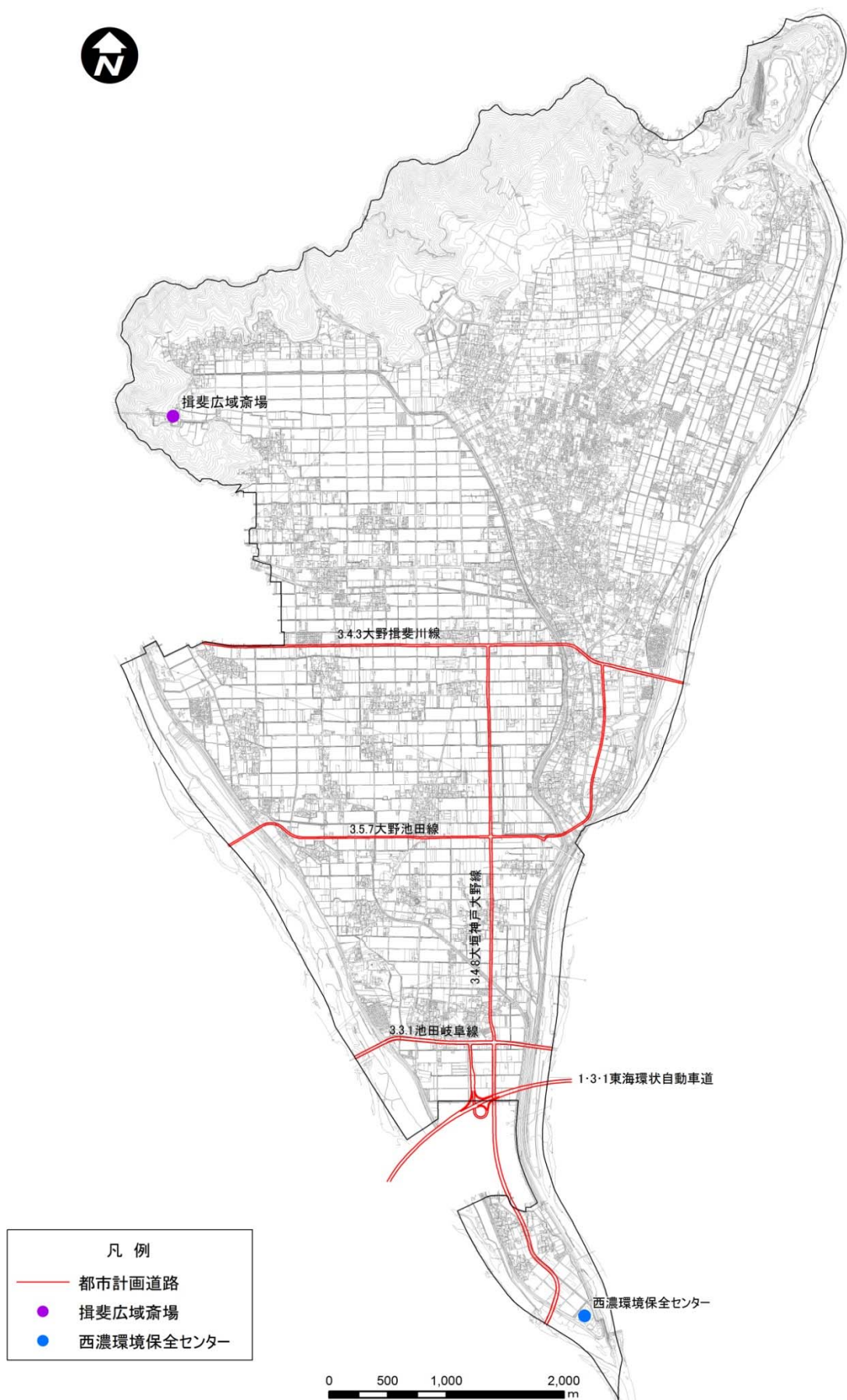


図 1-25 都市施設位置図

出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

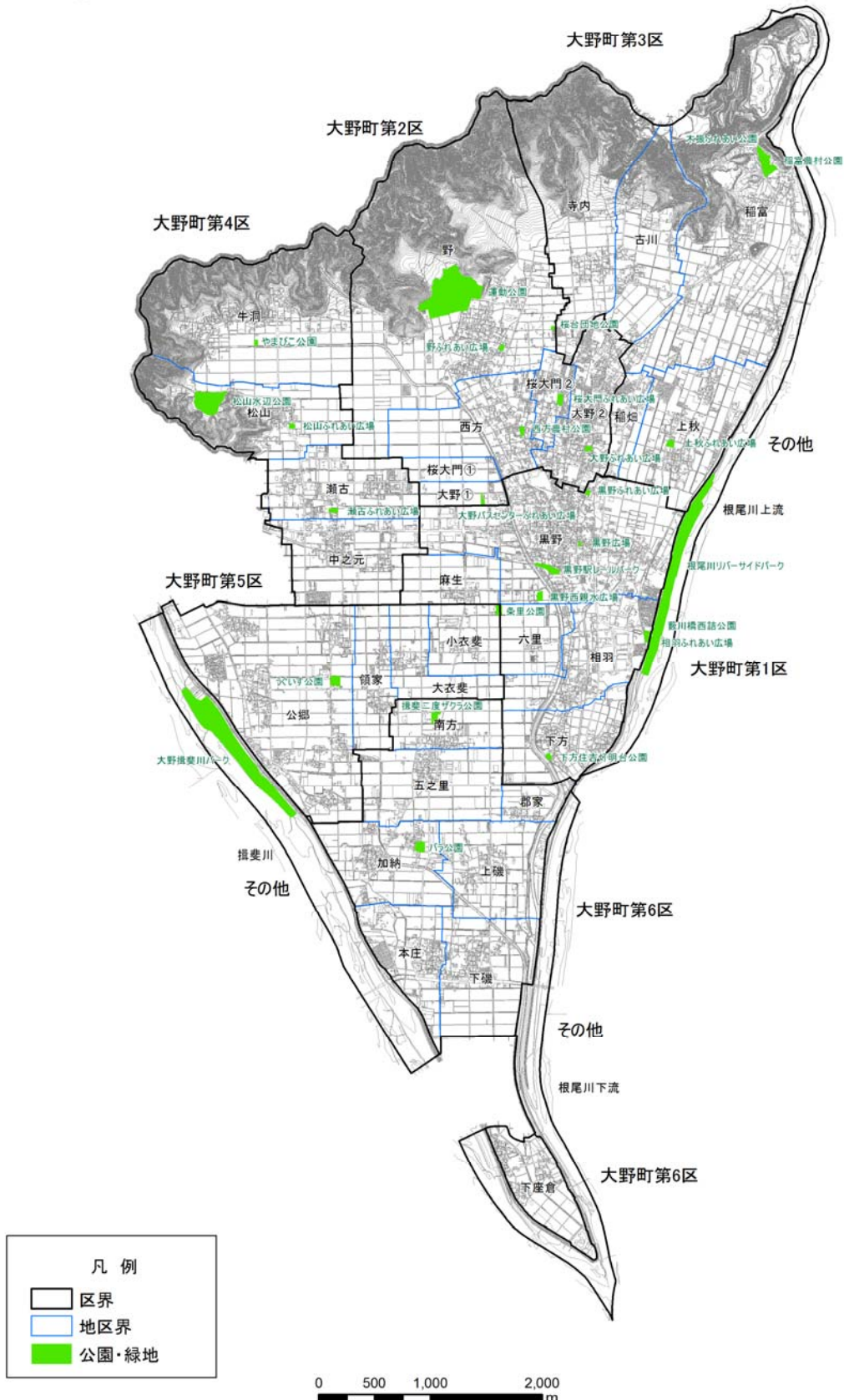


図 1-26 公園・緑地位置図

出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

(7) 市街化動向

開発許可の状況を見ると、表 1-26、図 1-27 および図 1-28 のとおり平成 21 年度(2009 年度) から平成 26 年度(2014 年度) までの 6 年間で 55 件、120,357 ㎡が許可されています。そのうち、住宅用地が 30 件、64,610 ㎡と最も多くなっています。

また、市街地開発事業については、表 1-27、図 1-28 のとおり町北部の寺内・野地区に工業団地 7.53ha が計画されています。

表 1-26 開発許可の状況

年度	住宅用地		商業用地		工業用地		その他		合計	
	件数 (件)	面積 (㎡)	件数 (件)	面積 (㎡)	件数 (件)	面積 (㎡)	件数 (件)	面積 (㎡)	件数 (件)	面積 (㎡)
平成 21 年度	8	18,800	0	0	6	12,632	5	9,772	19	41,204
平成 22 年度	3	7,382	0	0	1	1,831	0	0	4	9,213
平成 23 年度	4	8,772	2	6,766	0	0	1	2,189	7	17,727
平成 24 年度	7	14,248	2	3,970	1	4,052	2	5,082	12	27,352
平成 25 年度	3	6,317	0	0	2	2,881	1	2,371	6	11,569
平成 26 年度	5	9,092	0	0	2	4,201	0	0	7	13,293
合計	30	64,610	4	10,736	12	25,596	9	19,414	55	120,357

出典：平成 27 年度(2015 年度) 都市計画基礎調査

表 1-27 市街地開発事業

区分	名 称	地区	計画面積	総事業費	事業期間
工業団地 造成事業	テクノパーク大野	寺内・野	7.53 ha	1,200 百万円	H26～30 年度

出典：平成 27 年度(2015 年度) 都市計画基礎調査

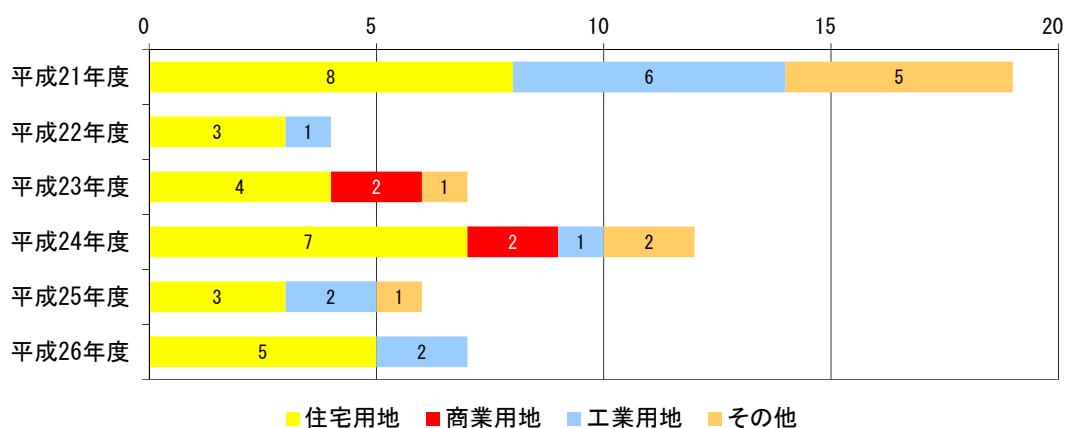


図 1-27 開発許可件数

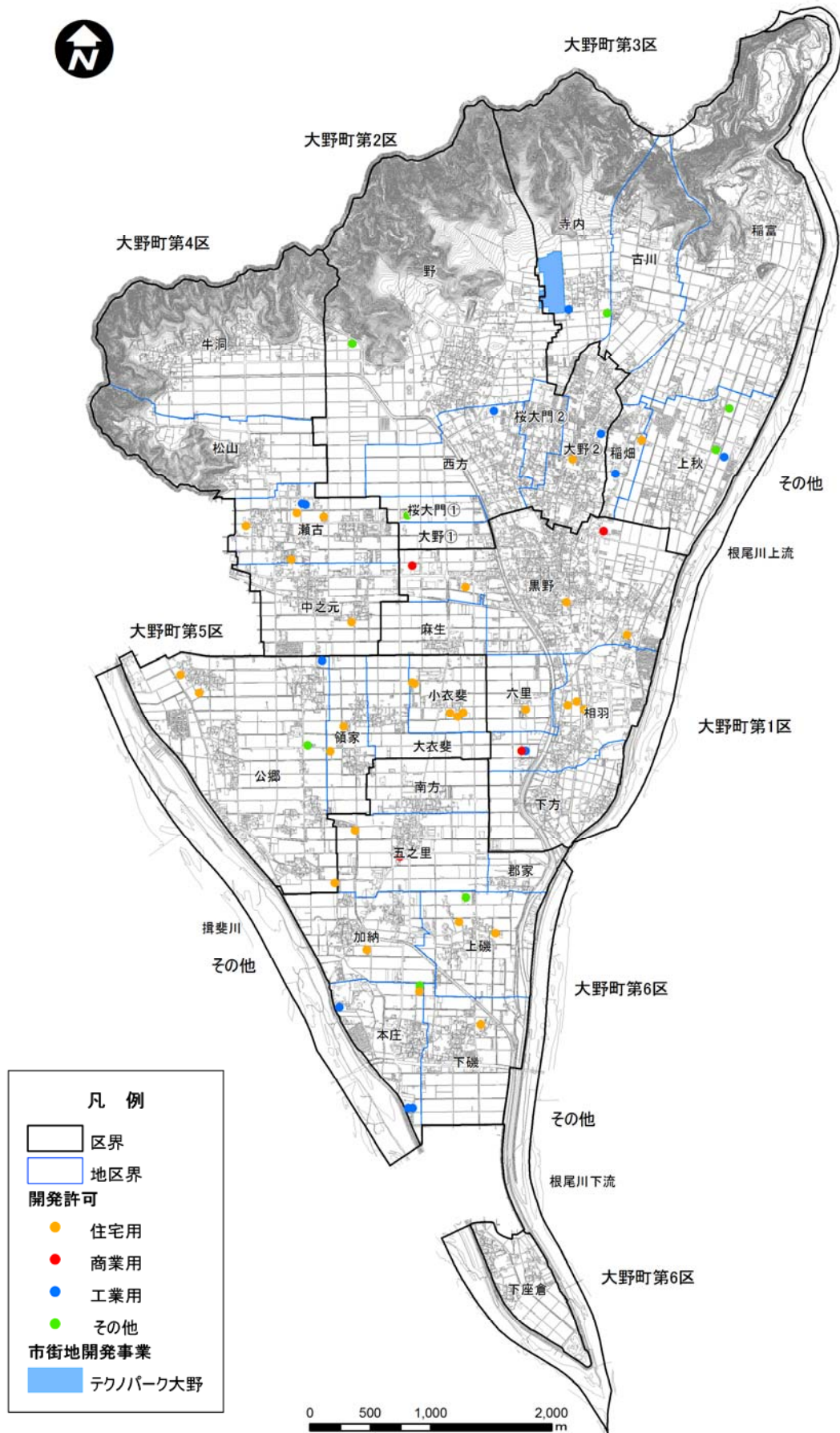


図 1-28 開発許可等位置図

出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

(8) 交通体系

① 道路

大野町の幹線道路は、表 1-28、図 1-29 のとおり町のほぼ中央部を国道 303 号、町南部に県道岐阜関ヶ原線が東西に通り、いずれも交通量 1 万台以上となっています。県道岐阜関ヶ原線は、整備が進められている東海環状自動車道および(仮称)大野・神戸インターチェンジの接続道路として位置づけられています。

そのほか県道が東西、南北方向に通り隣接する都市を結んでいます。

表 1-28 大野町の主要道路

区分	道路名	起点	終点
国道	国道 303 号	岐阜市	福井県若狭町
県道	県道 53 号岐阜関ヶ原線	岐阜市	関ヶ原町
	県道 78 号岐阜大野線	岐阜市	大野町
	県道 92 号岐阜巣南大野線	岐阜市	大野町
	県道 159 号北方真正大野線	北方町	大野町
	県道 212 号大垣大野線	大垣市	大野町
	県道 255 号根尾谷汲大野線	本巣市	大野町
	県道 263 号本庄揖斐川線	大野町	揖斐川町
	県道 265 号中之元古川線	大野町	大野町
	県道 266 号深坂大野線	揖斐川町	大野町
	県道 273 号池田揖斐川大野線	池田町	大野町

出典：大野町ホームページ〔平成 28 年（2016 年）現在〕

② 公共交通

公共交通の状況を見ると、表 1-29、図 1-30 のとおり、大野バスセンターを起終点として 5 路線のバス（民営路線バス 4 路線、揖斐川町コミュニティバス 1 路線）が運行され、岐阜市や大垣市、瑞穂市および揖斐川町を結んでいます。また、町内には、デマンドタクシーが運行しています。

バス停からの徒歩圏域 800 m の状況を見ると、大野バスセンターから南部の県道岐阜巣南大野線および県道北方真正大野線、国道 303 号沿道がカバーされています。

表 1-29 バス路線一覧表

運行事業者	路線名	行先	便数 (平日)
岐阜バス	大野穂積線	穂積駅前	9 便
		大野 B C	10 便
	大野忠節線・モレラ忠節線	J R 岐阜	18 便
		大野 B C	13 便
	真正大縄場線	J R 岐阜	7 便
		大野 B C	10 便
名阪近鉄バス	大垣大野線	西濃総合庁舎	11 便
		大野 B C	10 便
揖斐川町コミュニティバス	揖斐大野線	揖斐駅	6 便
		大野 B C	7 便

出典：各事業者時刻表

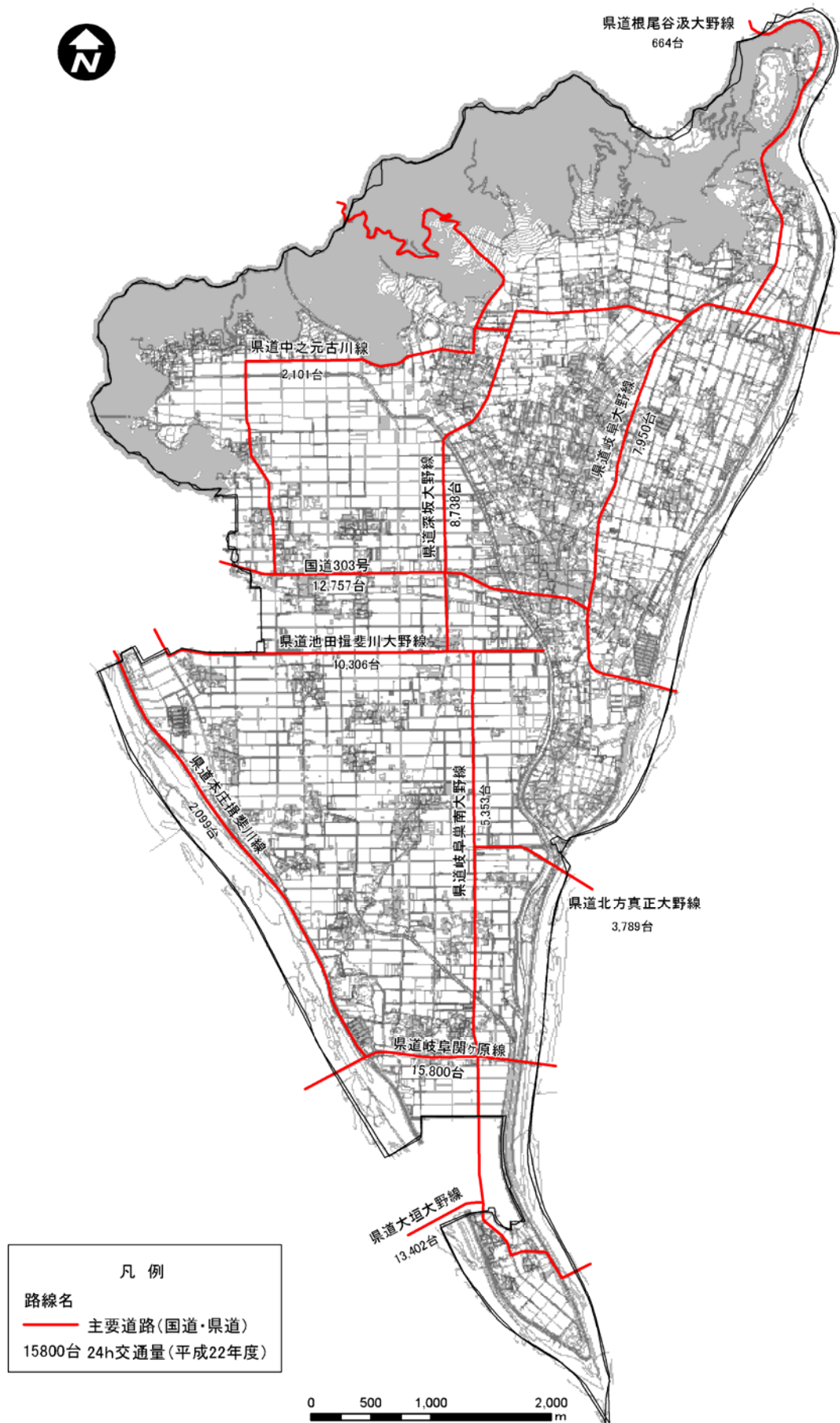


図 1-29 主要道路位置図

出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

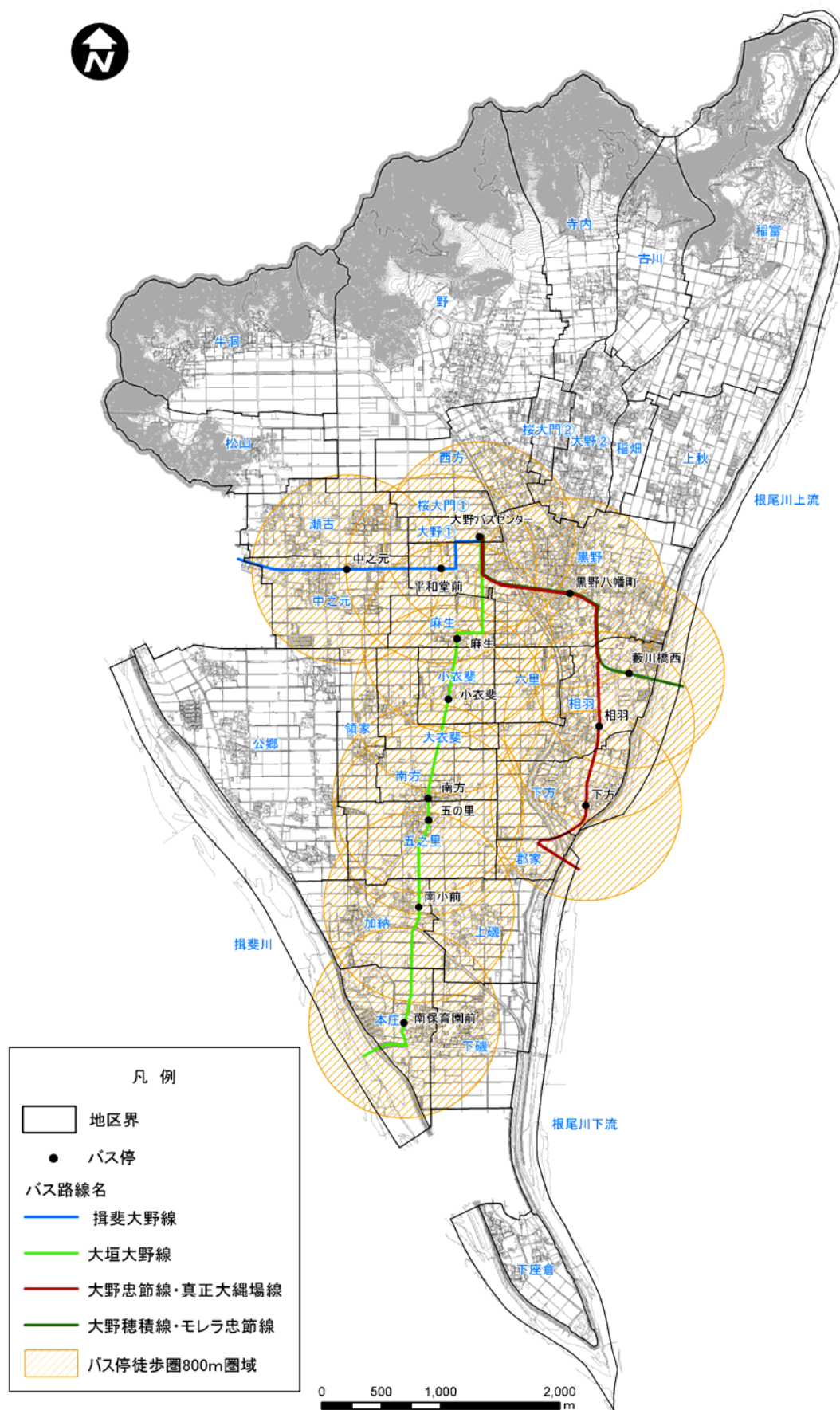


図 1-30 公共交通（バス路線）網図

出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

(9) 災害の危険性

① 洪水浸水想定区域

揖斐川及び根尾川が氾濫した場合の洪水浸水想定区域が示されており、町南部において2.0m以上の洪水浸水想定区域が多く見られます。

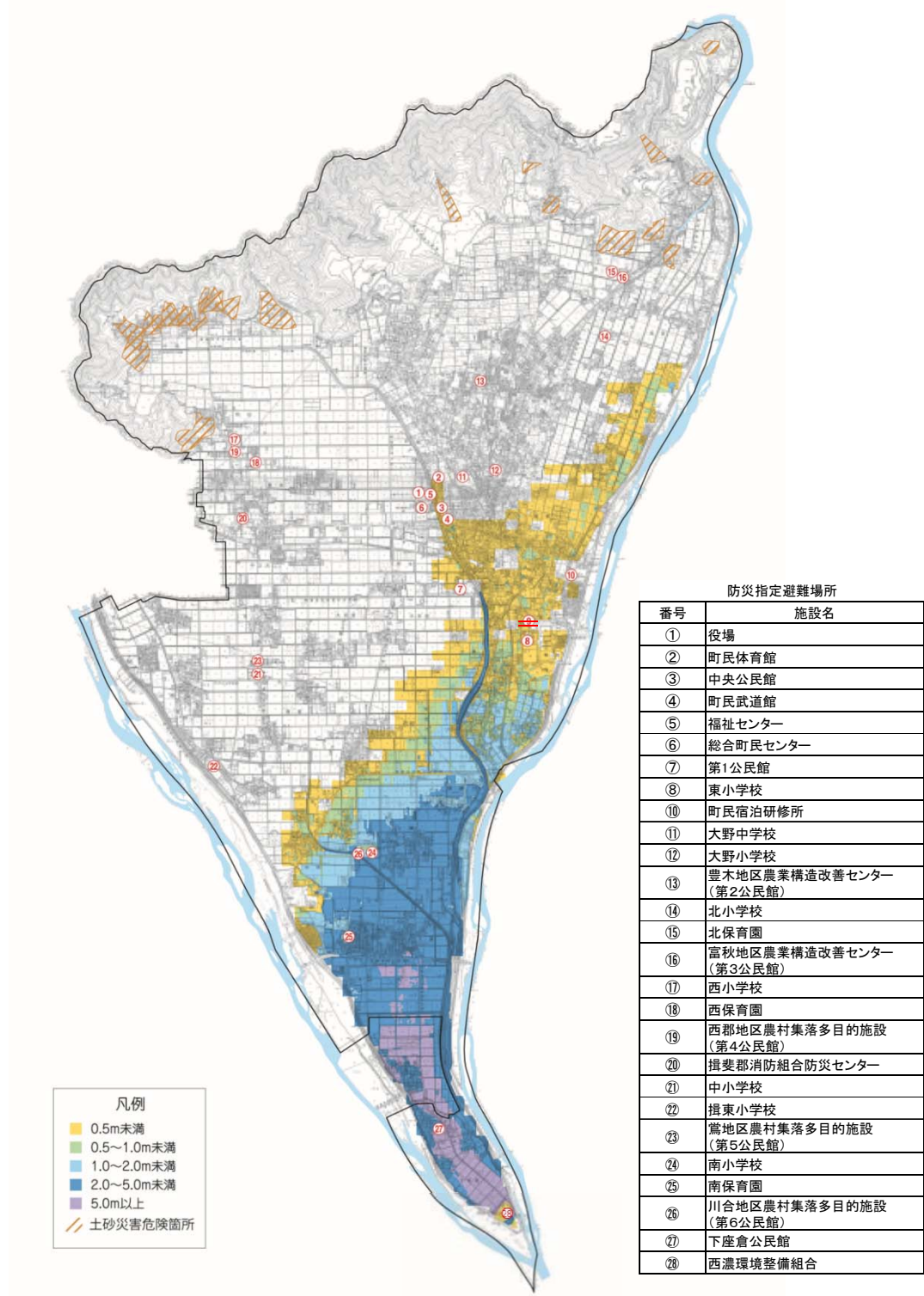


図 1-31 大野町洪水ハザードマップ

出典：平成 27 年大野町洪水ハザードマップ（一部加筆作成）

② 土砂災害警戒区域

北部山沿いには土砂災害警戒区域（土石流）が広く指定されており、一部、土砂災害特別警戒区域（土石流）も指定されています。

また、集落に近い箇所では、土砂災害特別警戒区域（急傾斜）や土砂災害警戒区域（急傾斜）も指定されています。

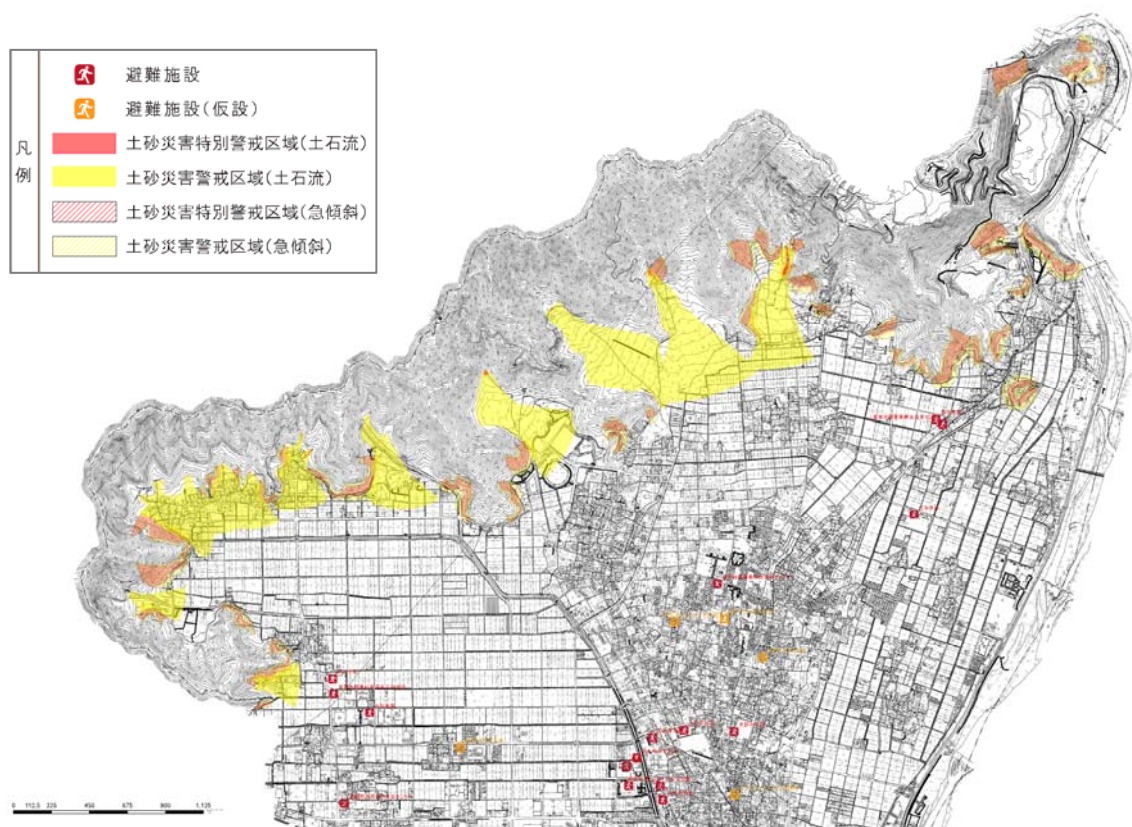


図 1-32 大野町土砂災害ハザードマップ（平成 24 年度時点）

出典：大野町地域防災計画

(10) 土地利用規制

本町に指定されている土地利用規制の状況を見ると、図 1-34 のとおりとなっています。

平成 7 年（1995 年）4 月に、大野町全域に都市計画区域が指定されていますが、市街化区域と市街化調整区域の線引き、用途地域は指定されていません。平成 16 年（2004 年）1 月には、白地地域（用途地域が指定されていない地域）の形態規制が指定されています。

また、町南部においては、東海環状自動車道（仮称）大野・神戸インターチェンジの整備が計画されており、新たに立地が懸念される建築物の規制と誘導をすることで、良好な住環境を維持・形成するために、平成 25 年（2013 年）9 月 1 日に特定用途制限地域が指定されています。

そのほか、揖斐川・根尾川の河川敷および北部山地を除いた町全域に農業振興地域（2,819ha）が指定されており、農地のほとんどの部分が建築行為等を行う場合に農地転用許可が必要な農用地区域（1,098ha）に指定されています。

(11) 財政力指数

本町の財政力指数の推移を見ると、表 1-30、図 1-33 のとおり平成 21 年度（2009 年度）の 0.69 をピークに緩やかに下降しています。また、県平均や周辺市町と比べると、県平均や揖斐川町、池田町を上回っていますが、大垣市よりも大きく下回っています。

表 1-30 財政力指数の推移

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
大 野 町	0.62	0.65	0.67	0.69	0.69	0.67	0.64	0.62	0.61	0.62	0.63
大 垣 市	0.86	0.89	0.94	1.00	1.00	0.95	0.90	0.89	0.90	0.91	0.89
揖 斐 川 町	0.38	0.41	0.44	0.45	0.45	0.43	0.41	0.40	0.39	0.39	0.4
池 田 町	0.58	0.61	0.63	0.64	0.64	0.62	0.60	0.59	0.59	0.61	0.63
県 平 均	0.60	0.62	0.64	0.65	0.65	0.62	0.60	0.58	0.58	0.58	0.52

出典：総務省地方公共団体の主要財政指標一覧

※財政力指数：地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去 3 年間の平均値。財政力指数が高いほど、普通交付税算定上の留保財源が大きいことになり、財源に余裕があるといえます。

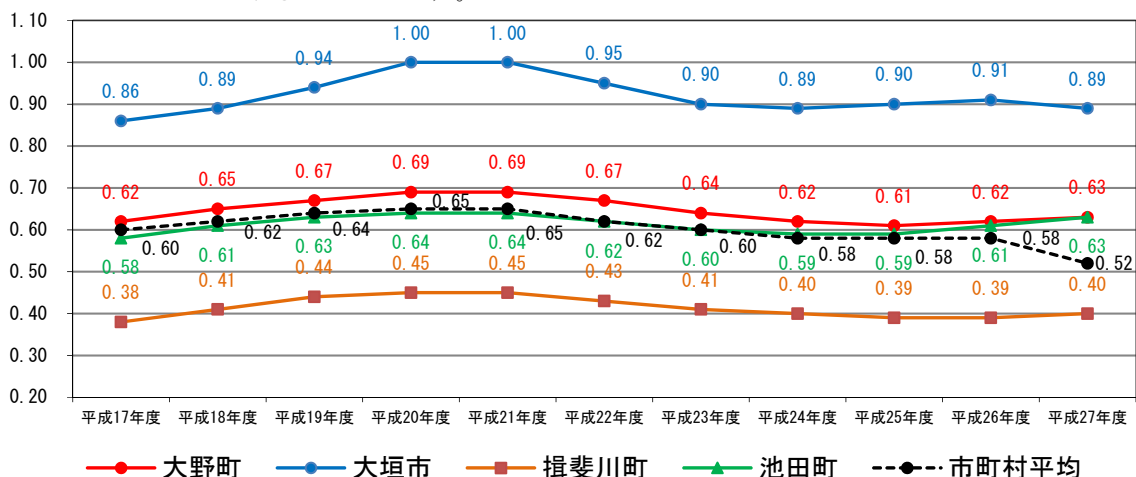


図 1-33 財政力指数の推移

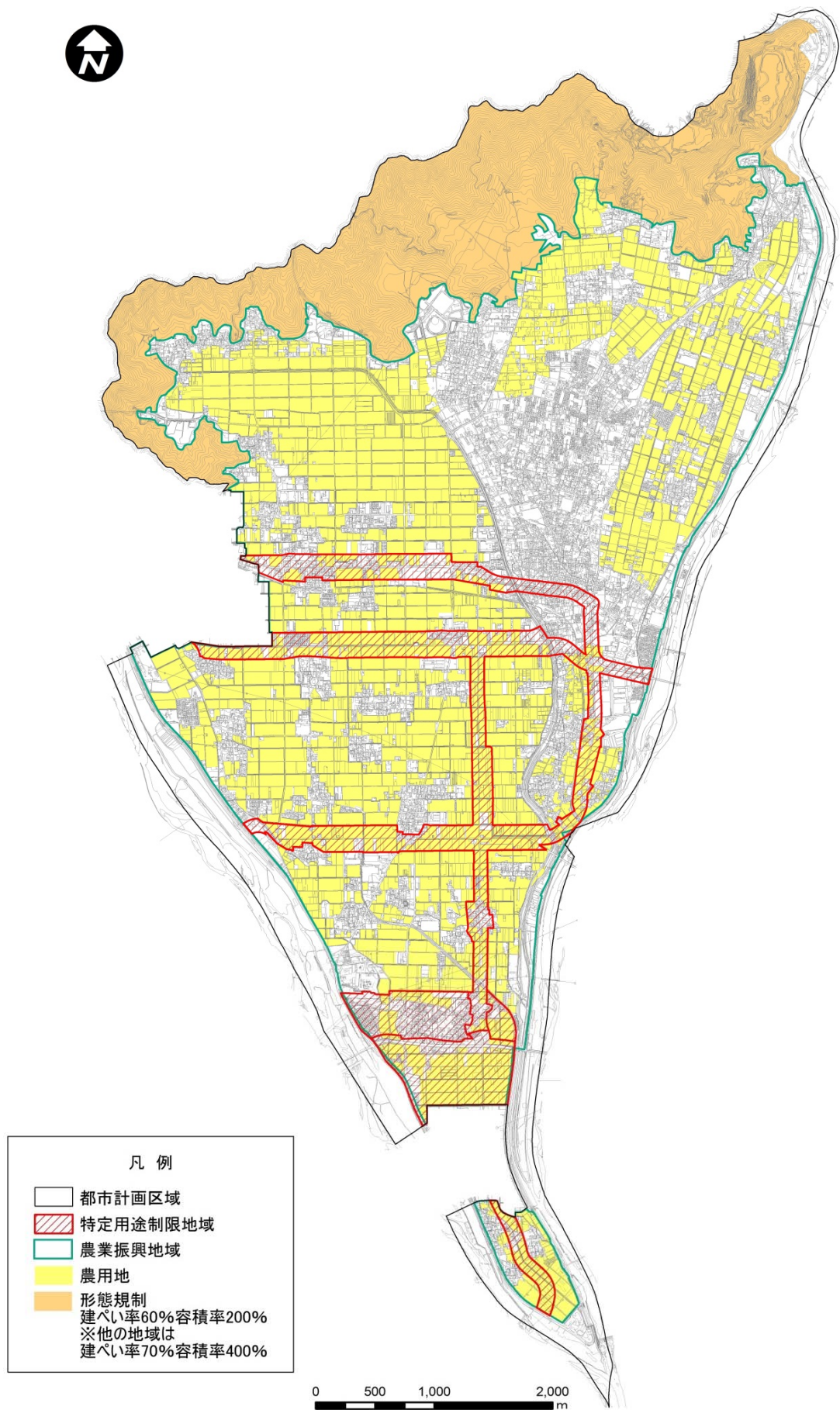


図 1-34 土地利用規制図

出典：平成 27 年度（2015 年度）都市計画基礎調査

(12) 住民意向調査

「大野町第六次総合計画」を策定するにあたり、平成 25 年（2013 年）7 月に実施された町民アンケート調査から、まちづくりに関する項目について調査結果の概要をまとめたものです。

この調査の対象者は、大野町在住の 18 歳以上の町民から 2,000 人を対象に無作為で抽出し、有効回収率 45.2%となっています。

① 総合的にみた大野町の住みやすさ

『総合的にみて、大野町は住みよいところだと思いますか』とたずねたところ、「住みやすい」が 18.6%、「どちらかといえば住みやすい」が 42.0%、あわせて約 60%が大野町は住みよいところだと回答しています。

『ここ数年の間に、お住まいの周辺の生活環境は、全般的にどのようなになったと感じますか』とたずねたところ、「以前より住みやすくなった」が 9.7%となっています。一方、「以前より住みにくくなった」が 15.4%となっており、住みやすくなったとする回答の割合を上回っています。以前より住みやすくなった理由では、買物利便性の向上や道路の整備が多く、住みにくくなった理由では、公共交通機関の不便さが多くあげられています。

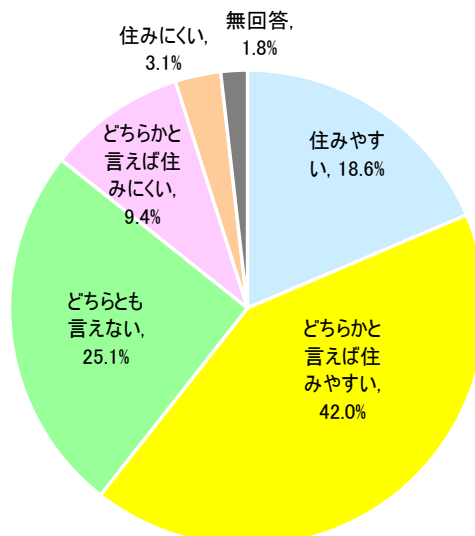


図 1-35 大野町の住みやすさ

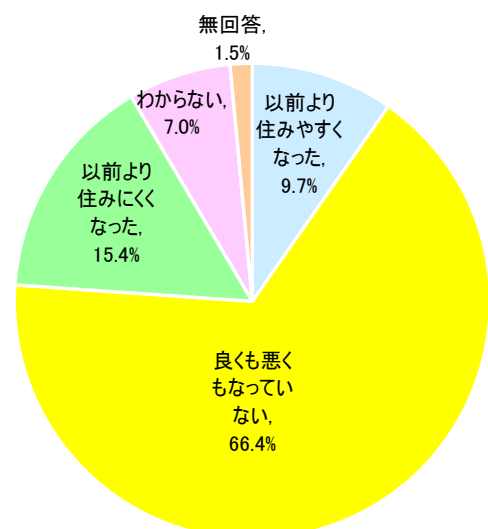


図 1-36 周辺の生活環境の評価

以前より住みやすくなった理由	以前より住みにくくなった理由
○ 店舗の増加、買物利便性の向上(29) ○ 道路の整備(18) ○ 病院の開業(5) ○ 住民の増加(4) ○ 公園の新設(3) ○ 子育て支援政策(2)	○ 名鉄廃線等、公共交通機関が不便(79) ○ 住宅増加によるトラブル、無関心(12) ○ 住民のモラル、マナーの低下(7) ○ 開発、自然環境の悪化(7) ○ 店舗の減少(4) ○ 税金、保険料が高い(4) ○ 産廃による環境破壊(4) ○ 交通量の増加(3)

② 今後の大野町への居留意向

『今後も大野町に住み続けたいと思いますか』とたずねたところ、半数超の 58.2%が「住み続けたい」としています。一方、「町外に移りたい」は 17.5%となっています。なお、21.8%が「わからない」と回答しています。

「町外に移りたい」と回答した方に『町外に移りたい理由は何ですか』とたずねたところ、「交通の便が良くない」が 73.4%で最も多く、次いで「まちに魅力や活気がない」が 38.6%、「買物や外食が不便」が 29.1%となっており、生活の利便性に関する回答が多くなっています。

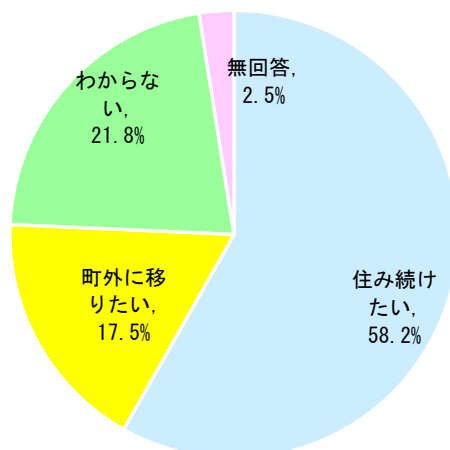


図 1-37 大野町への定住意向

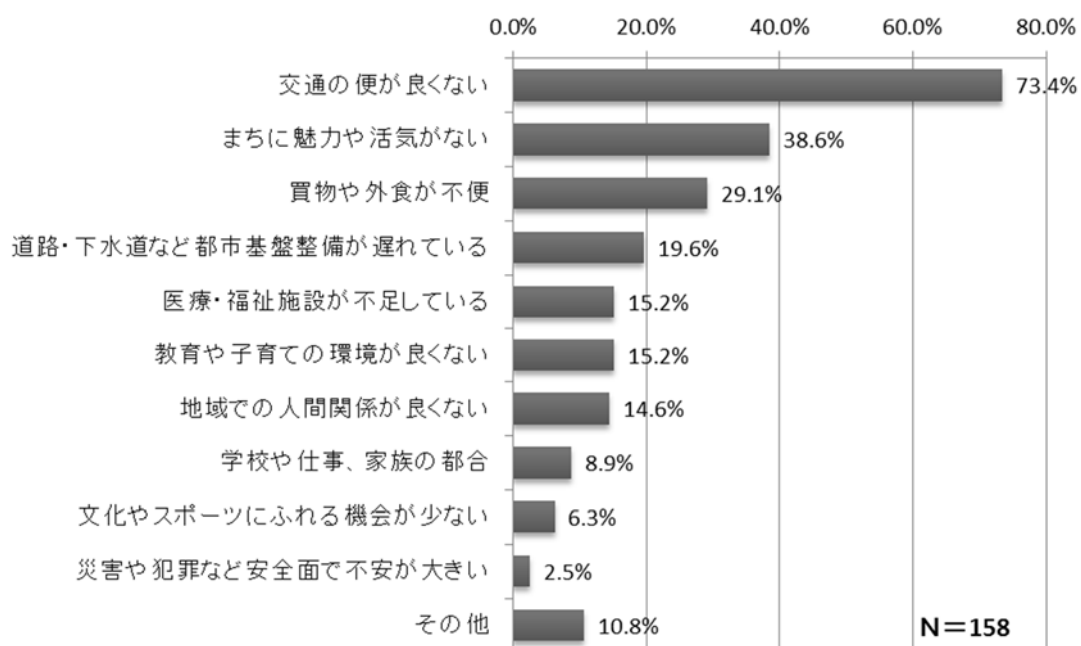


図 1-38 町外に移りたい理由

③ 主な施策の評価について

現在の評価（満足度）と今後への期待（重要度）を以下のとおり点数化し、「A：満足度が低く、重要度が高いもの」、「B：満足度が高く、重要度が高いもの」、「C：満足度が低く、重要度が低いもの」、「D：満足度が高く、重要度が低いもの」の4つの領域に分類しました。

満足度が高い項目としては、「健康づくりと保健医療」が3.17、「安全なまちづくり」が3.15となっており、逆に、満足度が低い項目としては、「交通ネットワーク」が2.25、「産業の振興」が2.52となっています。

重要度が高い項目としては、「健康づくりと保健医療」が3.69、「安全なまちづくり」が3.65、「社会福祉」が3.53、「交通ネットワーク」が3.51となっています。

満足度と重要度を合わせてみると、満足度が低く、重要度が高い項目（散布図の分類Aに該当するもの）としては、「交通ネットワーク」「産業の振興」「居住環境（住宅や公園・緑地の整備）」の3項目が該当しており、今後、特に取り組むべき必要のある課題と言えます。

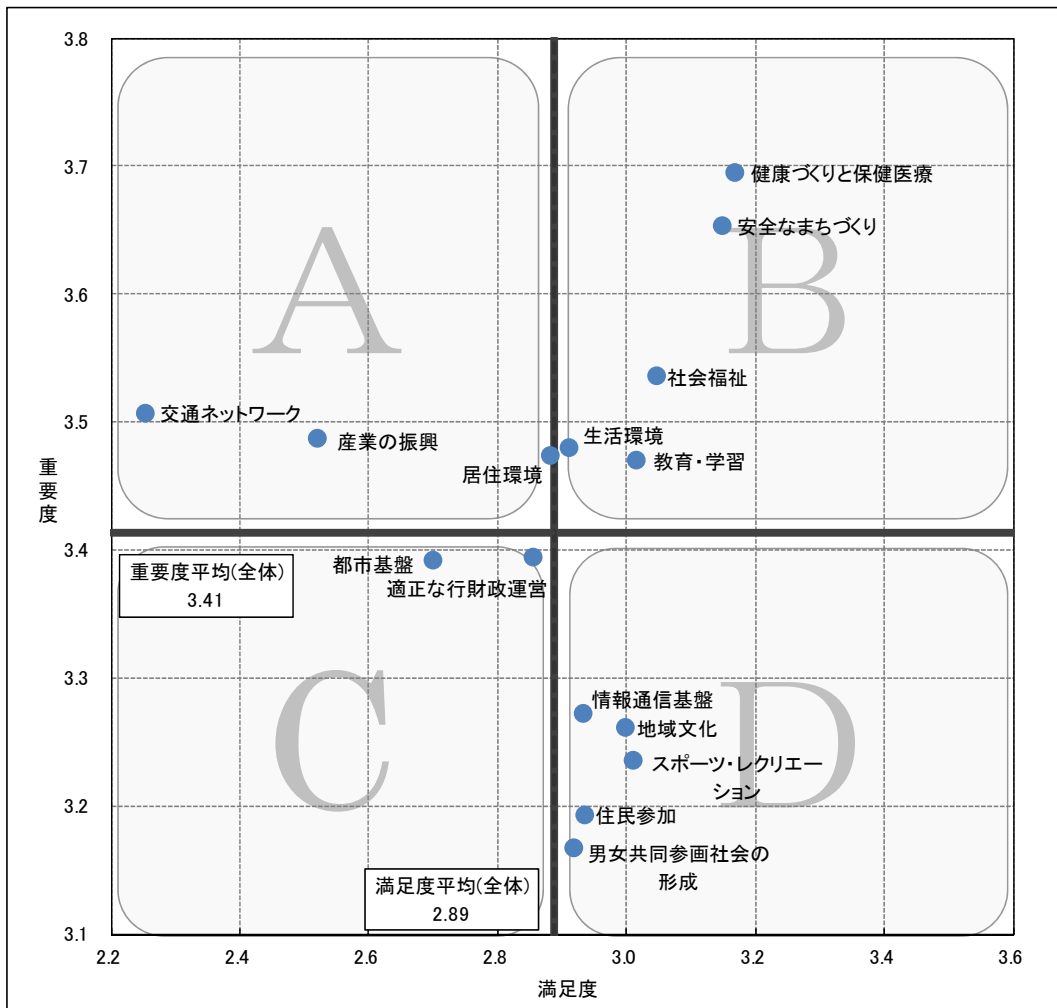


図 1-39 満足度・重要度の平均ポイントによる散布図（全体）

④ まちの将来イメージ

これからの大野町が目指すべきと思うまちのイメージや、大野町にふさわしいと思う町のキャッチフレーズを自由に記入していただきました。

「自然・緑が豊かなまち」、「安全・安心なまち」などが多くあげられたほか、「柿」「バラ」など大野町の特性を活かしたキャッチフレーズの提案をいただきました。

【大野町の将来像（キャッチフレーズ）】

- 自然・緑が豊かなまち（62）
- 安全・安心なまち（35）
- 子育てしやすいまち（27）
- 住みやすい、暮らしやすいまち（23）
- 高齢者にやさしい、長生きできるまち（22）
- 笑顔の多いまち（19）
- 柿を活かしたまち（16）
- バラ、バラ公園を活かしたまち（15）
- 活力、活気、パワーのあるまち（14）
- 豊か、豊かさを感じるまち（10）
- 企業誘致を進めるまち（8）
- きれいな川、清流があるまち（7）
- 文化のあふれるまち（6）
- 地震・災害に強い、防災のまち（6）
- 元気なまち（5）

※（ ）は意見数

4. まちの特性とまちづくりの方針

社会情勢の変化や上位・関連計画および大野町の現況特性を踏まえて、まちづくりの方針を整理します。

(1) 人口・世帯数

区分	まちの特性	まちづくりの方針
人口	・人口は平成 25 年から減少に転じています。 ・高齢人口が増加し、年少人口が減少しています。	・人口増加につながるまちづくり ・高齢化社会に対応したまちづくり ・子育て支援のまちづくり
世帯数	・世帯数は増加していますが、人口減少に伴い、今後減少することが考えられます。	・人口増加、世帯数の増加につながる住宅地整備、居住環境の整備による住みたくなる、住み続けたいまちづくり

(2) 産業

区分	まちの特性	まちづくりの方針
工業	・大規模工場の撤退により、製造品出荷額、従業者数が大きく減少しています。	・企業誘致、既存企業育成につながるまちづくり
商業	・町の中央部には大型店舗が集中して立地していますが、近隣市への大型店舗進出などにより、商品販売額が減少傾向にあります。	・町内の商業振興による、全ての町民が利用しやすい商業環境の整ったまちづくり
農業	・農家数、農業従事者数、経営耕地面積とも、減少傾向にあります。	・農業振興による、特産品を活かし、良好な田園風景を活かしたまちづくり
観光	・バラ公園等の観光資源はありますが、観光入込客数は周辺町に比べて少ない状況です。	・インターチェンジの開設を活かし、新たな施設の整備等、観光によるにぎわいのあるまちづくり

(3) 土地利用

区分	まちの特性	まちづくりの方針
規制・誘導	・一部の地域に特定用途制限地域が指定されていますが、用途地域等の土地利用の規制・誘導のための制度は指定されていません。	・都市計画の規制・誘導策による計画的なまちづくり
住宅地	・既成市街地、集落に住宅地が形成されています。また、農地転用による新たな住宅が立地しています。	・住宅が計画的に配置された、だれもが住みやすい住環境のまちづくり
商業地	・商業施設が町の中央部に集中して立地しています。	・インターチェンジを活かした、商業施設が適正に配置されたまちづくり
工業地	・(仮称) 大野・神戸インターチェンジが開設され、工業施設の立地が期待されます。	・インターチェンジを活かした、工業用地が計画的に配置されたまちづくり
農地	・整形に整備された農地が広がっています。	・健全に耕作された優良農地を保全するまちづくり
山林	・本町の北部に緑豊かな山林があります。	・豊かな山林の保全による、緑豊かなまちづくり

(4) 都市施設等

区分	まちの特性	まちづくりの方針
道路	・都市計画道路は、多くの部分で共用されていますが、まだ未整備の区間があります。 ・(仮称) 大野・神戸インターチェンジが開設され広域的なアクセスが向上します。	・都市計画道路が整備されたまちづくり ・インターチェンジへのアクセス道路が整備されたまちづくり
公共交通	・バス交通は、民営路線バス5路線、揖斐川町コミュニティバス1路線が運行され、町の多くの部分を徒歩圏でカバーしていますが、北部に運行されていないところがあります。	・自動車に頼らず公共交通機関で移動できるまちづくり
公園・緑地	・水辺の環境や水に親しむ公園をはじめ、身近な公園である「地域公園」が27箇所あります。	・町民と協働で管理し、町民のニーズにあった、町民に愛される公園が整備されたまちづくり

区分	まちの特性	まちづくりの方針
下水道	・汚水処理人口普及率や公共下水道普及率は、周辺市町村と比較し大きく下回っており、生活排水の処理環境が劣っています。	・社会情勢等に適した処理方法により、生活排水が処理されたまちづくり
河川	・集中豪雨時における河川の氾濫により生命、財産への潜在的な危険性があります。	・河川の危険個所の改修、親水環境整備により、安全で親しみのある河川を活かしたまちづくり
住宅	・人口減少対策として、移住・定住促進のための、新築住宅支援や住宅ストックの有効活用を図る必要があります。	・空家が有効に活用されたまちづくり ・住宅が耐震化された地震に対して安全なまちづくり

(5) 都市環境

区分	まちの特性	まちづくりの方針
都市防災	・北部山沿いに土石流危険渓流、急傾斜地崩壊危険箇所が点在しています。 ・根尾川の氾濫による洪水浸水想定区域が町の南部、東部にあり、南部においては2 m以上の洪水浸水想定区域があります。 ・建築物の50%以上が昭和56年以前の建物で、耐震性がない可能性があります。	・自然災害に強いまちづくり ・建築物が地震対策されたまちづくり
環境	・緑豊かな山林や農地が広がり、大小様々な河川や水路が流れており、自然豊かなまちが形成されています。	・豊かな自然環境が維持、保全された自然と共生したまちづくり ・豊かな自然資源や農業という地域資源を活用したエネルギーの自給自足型、環境型のまちづくり
コンパクトで機能的なまちづくり	・コンパクトな町域に既存の都市機能が集積されています。 ・日常生活の移動手段が自家用車に過度に依存した状況です。	・自動車交通に過度に依存しない、地球環境にやさしいコンパクトで機能的な都市構造のまちづくり